

昭和 10 年代前半の高島亀太郎(下)

—政治活動について—

川 東 蟬 弘

目 次

はじめに

第 1 章 昭和 10 年の亀太郎

- (1) 宇和島市会における亀太郎
- (2) 昭和 10 年 9 月の県会議員選挙と亀太郎

第 2 章 昭和 11 年の亀太郎

- (1) 昭和 11 年 2 月の衆議院選挙と亀太郎
- (2) 昭和 11 年 5 月の出直しの市会議員選挙と亀太郎

第 3 章 昭和 12 年の亀太郎—衆議院議員・亀太郎—

第 4 章 昭和 13 年の亀太郎

第 5 章 昭和 14 年の亀太郎

- (1) 衆議院議員としての亀太郎
- (2) 宇和島市長・亀太郎

は じ め に

前稿では、昭和 10 年代前半（昭和 10 年～14 年）の高島亀太郎の家業・製糸業について見ましたので¹⁾、今回は昭和 10 年代前半（10 年～14 年）の亀太郎の政治活動について見ることにします。この時期は、亀太郎の人生上最も多忙な時代です。

昭和 10 年（1935）の亀太郎は、家業の製糸業の傍ら、宇和島の政友会の中心

1) 拙稿「昭和 10 年代前半の高島亀太郎（上）—高島製糸について—」『松山大学論集』第 11 巻第 2 号，1999 年 6 月。

人物として、市会議員として、また市会議長として、多忙な日々を送っていました。宇和島は、政友会と民政党との間で政争が特に激しく繰り広げられ、また、買収選挙が日常的に行われていました。この年の9月に県会議員選挙があり、宇和島の政友会は候補者を巡り、山村（豊次郎）派と井上（源一）派の2つに分裂し、且つ双方が買収選挙を行い、現職の井上市長が逮捕され、辞任するという前代未聞の失態が起きています。

11年（1936）の2月には衆議院選挙があり、亀太郎は山村豊次郎再選のために奮闘しています。山村の再選はなされたものの、この選挙で政友・民政とも選挙違反者が続出し、山村候補も逮捕されています。その渦中に亀太郎もいて、事情聴取を受けています。そして、この選挙により、宇和島の多くの市会議員が刑務所に入り、宇和島市議会は総辞職を余儀なくされています。そして、5月に出直しの市会議員選挙が行われています（この出直し選挙には、亀太郎は出ませんでした）。7月の新市長選では、市長候補に政友会から亀太郎が推薦され、民政党推薦の赤松桂とが争い、亀太郎は負けています。

12年（1937）の4月に再度衆議院選挙があり、この時亀太郎は山村の後継者として3区から政友会公認で立候補し、昔の先輩村松恒一郎（民政）と争い、圧勝し、2位で当選、初の衆議院議員になりました。

13年（1938）の10月に、宇和島市会議員の改選が行われました。しかし、11年5月の出直し選挙から起算してまだ2年余りにすぎず、任期途中の選挙だとして選挙無効の異議申し立てがなされ、裁判となっています。相変わらずトラブルが続いています。

14年（1939）5月26日に、行政裁判所の判決があり、13年10月の市会議員選挙は無効、市会議員は失格という判決が出て、11年5月に当選した議員が復活するという前代未聞の失態が起きています。そして、6月12日、復活市会議員による市会で、新市長選が行われました。この時、現職の衆議院議員であった亀太郎が政友派のみならず、民政派の支持も得て、全会一致で宇和島市長に選ばれています。亀太郎56歳の時でした。亀太郎は衆議院議員と宇和島市長を

兼務することになり、多忙極まりない日々を送ることになりました。

以下、亀太郎日記その他の資料を用いつつ、政争に明け暮れる宇和島市会、そして、本時期の亀太郎の政治活動や選挙活動について見てみましょう。

第 1 章 昭和 10 年の亀太郎

(1) 宇和島市会における亀太郎

亀太郎は、宇和島市会議長、政友会宇和島支部の役員として、公務・政治活動に取り組んでいます。

1 月 1 日には新年の拝賀式に市会議長として参列しています。日記に「十時市会議事堂ニ於ケル新年拝賀式ニ参列ス。市長二次デ、予、市会議長トシテ御真影ヲ拝シ、一同列拝ノ上式ヲ閉ヅ。列続キ公会堂ニ於ケル官民合同新年祝賀会ニ出席シ、陛下ノ萬歳ヲ三唱、祝杯ヲ挙グ」(1 月 1 日)とあります。

亀太郎は政友会宇和島部会の役員です。1 月 17 日には役員会に出席しています。「午後五時蔦屋ニ於ケル政友会宇和島部会ノ役員会ニ出席……蔦屋ノ会合ニ出席ス。宇和島支部ノ幹事長選任ハ、予等幹部ニテ会議ノ結果、久野修蔵〔造〕君ニ決定シ、尚新ニ会計幹事ヲ置キ、長山芳介君ヲ選任シタリ」。

この時の宇和島市長は政友会の井上源一(昭和 8 年 5 月 13 日就任～)であり、市会の勢力は、政友会派 19 名、民政党派 17 名で、僅差ですが、政友会が過半数を占め、市政と市会を独占しています。しかし、政友会と民政党の議席差は僅か 2 名で、政・民の政争が大変激しく、野党の民政党は井上市長を激しく攻撃しています。それに対し、亀太郎ら政友会派は、しばしば会合を重ね、井上市長を支えています。日記に「午後六時ヨリ蔦屋ニ於ケル政友派市会議員ノ協議会ニ出席ス」(2 月 6 日)。「市役所ニテ、井上市長予算編成ノ協議ニ与リナドス」(2 月 9 日)。「午前九時ヨリ市会ノ協議会ニ出席ス。午後二時散会ノ後、北町都築へ行キタリ」(2 月 18 日)等々とあります。

3 月 16 日から 25 日にかけて、昭和 10 年度の予算案を審議する予算市会が開催されました。この市会では野党民政党側からの攻撃、切り崩しが激しく、与

党政友会側、井上市長もしばしば窮地に陥ったようです。亀太郎ら政友会側は、カフェー・ミカド（政友会の久野修造の経営、大正11年創業）にて何度も協議、対策を重ねています。

3月16日に、井上市長が予算案の説明をしています。「午前九時市役所へ行き、十一時ヨリ市会ヲ開会ス。予、議長席ニ就キ、井上市長ヨリ昭和十年度予算案ニ就テ大綱ヲ説明シ、尚八年度ノ決算報告ハ委員付託トシテ調査セシムルコトニ決ス。予算審査ノ為メ三日間休会スルコト、シテ、午後一時閉会シタリ」。

3月20日に市会が再開され、予算案の審議が行われています。政争を反映し、傍聴者が多く、傍聴人規則を「改正」し、制限しています。「午前九時ヨリ市役所へ行き、十一時市会ヲ開会ス。予算案ノ第一読会ニシテ、尚傍聴人規則ヲ改正シテ、傍聴券ハ議長ニ於テ必要ト認ムルトキニ限り発行スルコト、ス。午後四時閉会ミカドニ会ス」。

3月22日にも予算案の審議が続きます。「午前九時市役所へ行き、十一時ヨリ市会ヲ開ク。九年度追加予算ヲ議決シ、午後十年度予算ノ第一読会ヲ続行ス。尚副議長清家氏辞職シ、補欠選挙ノ結果、薬師神岩太郎君当選セリ。四時閉会ミカドニ会ス」。

市会における政友派と民政派との勢力差は2人で、1人でも寝返れば、同数です。そこを狙って、野党民政党側から政友会派議員への切り崩しがなされ、動揺者が出たようです。それに対し、亀太郎らはその対策に腐心し、3月23日の市会を流会させるなどの「戦術」をとっています。党利党略です。日記に「与党市会議員中ニ動揺アリ、結束不完全ノ憂アルヲ以テ、朝来、井上市長、牧野虎恵君等トミカドニ会シテ対策ヲ議ス。一方会議ハ十一時、予、議場ニ臨ミテ流会ヲ宣シ、午後ミカドニ於テ政友派議員全部ノ協議会ヲ催シ、結局既定ノ方針ニ基キテ異動ナク進行スルコト、決シテ、八時散会シタルガ、反対党ノ切崩シ運動猛烈ニシテ、依然樂觀ヲ許サザル情勢ナリ」（3月23日）とあります。

3月24日は日曜日ですが、亀太郎は井上市長や政友会派の市会議員と協議を重ね、また、民政党側の有力議員、河野松衛・佐々木饒と料亭で会い、妥協の

道を探っています。「夜、ミカドニテ井上市長ニ面談、尚牧野君ト共ニ錦ニテ久留島、岩井、大野ノ諸議員ニ会シ、後、予ハ老松ニテ河野、佐々木両君ニ面接ス。政局当面維持ノ為ナリ」。

3月25日に市会が開かれました。政友会派は病氣中の村山半蔵議員も担ぎました。そして、民政党の予算廃案説を18対16で否決し、民政党議員退場の下、政友会のみで予算案を通しました。日記に「午前九時ヨリ市会ニ行ク。同志議員ハ病中ノ村山君ヲモ出席セシメテ、十八名ニ達シ、中立ノ井上雄馬君ハ欠席、民政党側十六名ヲ揃へて、十時五十分ヨリ開会。予算案ノ第一読会ヲ続ク。午後政友側ヨリ第二読会ニ移スノ動議ヲ出シ、民政側ハ廃案説ヲ主張シ、採決ノ結果、十八対十六ニテ廃案説破レ、民政側議員全部退場ス。予ハ議長トシテ、尚議事継続ヲ宣シ、与党議員十八名ノミヲ以テ予算案ヲ可決ス。其他ノ諸案モ全部原案ノ儘、或ハ多少ノ修正ヲ加ヘテ可決シ、負債整理組合ニ対スル諮問案ハ理事者ヨリ撤回セシメ、外ニ一、二意見書ヲモ議決シテ五時全部終了。市長閉会ヲ告グ。開会以来十日ニ及ビ、内会議ヲ開クコト四日、波瀾アル予算市会ナリキ。六時ヨリ政友派議員ノ慰労会ヲ春の家ニ催シタリ」とあります。

このように、日記から、政争激しい宇和島市会の状況が判明します。そして、その渦中に亀太郎がいることが分かります。

4月末、井上源一市長が、理由は定かではありませんが（政友会内部の不一致か？）、市長辞任を洩らし、亀太郎が慰留に奔走しています。日記に「午前十時、桜町池下君宅ニテ、山村氏、牧野君ト会見ス。後、予ハ井上市長トミカドニテ会談シ、更ニ久都君ヲ訪フ等、市長進退問題ニ就テ夕刻迄奔走シ、略、落着点ニ達セリ。夜、ミカドニ政友派市会議員ヲ会シテ、明日ノ市会対策ヲ打合ス」（4月29日）とあります。この時は、市長慰留に成功したようです。

昭和10年の日記は、市会内の政争で多忙の為だったのでしょうか、5月10日で終わり、後は記述がありません。

(2) 昭和10年9月の県会議員選挙と亀太郎

昭和10年(1935)9月25日に、岡田啓介内閣(昭和9年7月8日～11年3月9日、民政党が与党、政友会は野党)の選挙粛清下、定期改選の第22回愛媛県会議員選挙が行われています。

宇和島市選挙区の定員は2名。民政党は現職の佐々木饒(宇和島製氷会社取締役、市議)を立候補させることを決めました。それに対し、政友会宇和島部会は、9月初め、今回の県議候補をだれにするかで協議し、現職の久都直太郎(酒販売業、市議でもある)は推さず、高畠亀太郎(市会議長、元県議)か、牧野虎恵(市農会長、市議)かのいずれかを出馬させ、山村代議士の帰郷を待つて決定することにしました。そして、結局、牧野を出すことにしました。亀太郎は、前回のときに、県議立候補をしましたが、村松の調停により取りやめ、また、今回も候補になりましたが、牧野に譲っているようです。そして、亀太郎が牧野の推薦人になりました²⁾

しかし、この政友会宇和島部会の決定に対し、政友会のもう一つの派閥(井上源一市長を頭目にした久都直太郎、薬師神岩太郎、久野修造ら市政「革新派」)が猛反発し、自派の薬師神岩太郎(宇和島通運株式会社取締役、市議、副議長)を立候補させ、宇和島の政友会は真っ二つに分裂しました³⁾

結局、宇和島選挙区では、民政党の佐々木饒、政友会の牧野虎恵、薬師神岩太郎の3人の一騎討ちとなり、結果は佐々木が2,714票、薬師神が1,937票で当選し、亀太郎の推薦した牧野が1,653票で落選しています⁴⁾

また、県全体の選挙結果は、政友会18、民政党17、中立3で、僅差ですが、政友会が勝ち、前回選挙(昭和6年9月)の民政優位の状況が逆転しました。

この県会議員選挙は、宇和島の政友会と市政に大きな影響・汚点を残しました。宇和島の政友会は分裂するし、また、現職の宇和島市長井上源一が、選挙

2) 『伊予新報』昭和10年9月5日、13日、15日、26日。

3) 『伊予新報』昭和10年9月5日、13日、15日、26日。

4) 『愛媛県議会史 第4巻』769～780頁。

前日の 9 月 24 日、選挙違反で宇和島検事局の取り調べを受け、そして、選挙投票日の 25 日に宇和島刑務所に収容されてしまいました。現職市長逮捕という前代未聞の不祥事です⁵⁾。また、市長だけでなく、続々選挙違反者が出て、100 名ほどが検挙されています。

井上市長は、刑務所出所以来、自宅に謹慎していましたが、12 月 2 日久しぶりに登庁し、翌 12 月 3 日に市長辞表を提出し、退任しました。そして、12 月 5 日、井上源一前市長らの選挙違反事件の裁判（井上源一、久都直太郎、松田亀市）が行われ、井上は容疑を認め、禁固 5 月の刑が求刑されています⁶⁾。

井上市長退任後の市長は、助役の柏木乙一郎が臨時市長代理となり、10 年 12 月 3 日から翌 11 年 7 月 18 日まで 7 ヶ月ほど市政を担当しています⁷⁾。

第 2 章 昭和 11 年の亀太郎

(1) 昭和 11 年 2 月の衆議院選挙と亀太郎

昭和 11 年（1936）は、総選挙があり、「二・二六事件」があり、また、宇和島市会議員総辞職があり、出直し選挙があり、波瀾にとんだ年となっています。

1 月 21 日、岡田啓介内閣⁸⁾は、議会多数を占める野党政友会の内閣不信任案

5) 9 月 26 日の『伊予新報』は「宇和島市長井上氏は二十四日午前九時突如宇和島検事局に召喚され、竹内検事から前後十八時間にわたる長時間の取調を受けたのち、二十五日午前二時四十分身柄は宇和島刑務所支所に収容された。事件は県会議員選挙取締罰則の違反によるもので、某候補の選挙運動を行い、某方面に投票依頼を行った確証があったものゝ如く直に予審に附された。なお、井上市長と相前後して清水収入役も召喚取調を受け、更に北陽花街の料亭『春の家』こと村上助太郎氏も二十四日午後家宅捜査を受けた。なほ、井上市長は革新派の主盟で、これまで政友派に合流して市政に臨んでいたものであるが、今回の選挙に際し、同志久都直太郎氏を再薦すべく画策して政友派と正面衝突を来し、遂に同志数名と共に政友会と絶縁、同志の薬師神岩太郎氏を候補者に推薦するにいたったのである」と述べている。

6) 『伊予新報』昭和 10 年 12 月 3、6 日。

7) 『宇和島市誌』271～272 頁。

8) 岡田啓介内閣は、斎藤実内閣が帝人事件で総辞職したあと、昭和 9 年（1934）7 月 8 日成立。岡田は「挙国一致」ということで、政友会、民政党からの入閣をもとめましたが、政友会（総裁は鈴木喜三郎）は議会の多数を占めているのに、政権が回ってこなかったため、入閣を拒否し、野党的立場をとり、他方、民政党（総裁は若槻礼次郎）は 2 人入閣し、与党となっていました（升味準之輔『日本政党史論 第 6 巻』東京大学出版会、213～219 頁、伊藤隆『昭和史をさぐる』朝日文庫、157～158 頁）。

の上程をうけて、議会を解散しました。その結果、2月20日、第19回衆議院議員選挙が行われることになりました。

愛媛県の選挙区は3区に分かれ、それぞれ定員が3名の中選挙区制でした。現有議席は、政友会7名、民政党2名で、政友会が圧倒的に議席独占していました。この選挙は政権与党民政党にとって勢力逆転の絶好のチャンスでした。民政党は攻めの選挙、野党の政友会は守りの選挙です。1区(松山市、温泉郡、伊予郡、上浮穴郡、喜多郡)では、民政党が2名を公認し(現職の武智勇記、元議員の松田喜三郎)、政友会も2名を公認しましたが(現職の大本貞太郎、新人の岡本馬太郎)、さらに、現職の政友会の須之内品吉が、離党して中立で立候補し、政友会側は混乱・乱立です。2区(今治市、越智郡、周桑郡、新居郡、宇摩郡)では、民政党が3名を公認し(現職の村上紋四郎、元議員の小野寅吉、新人の安藤音三郎)、政友会が2名を公認し(現職の河上哲太と新人の近藤敏夫)、その他、渡辺鬼子松(民政系、中立)も立候補しました。亀太郎の属する3区(宇和島市、八幡浜市、西・東・北・南宇和郡)では、民政党が2名を公認し(元議員の本多真喜雄、新人の古城貞)、また、政友会も2名を公認しました(現職の山村豊次郎と神戸選挙区からの転入の砂田重政)⁹⁾

3区では、政友会は当初、衆議院議員の清家吉次郎はすでに亡く(昭和9年2月死亡)、また、山村豊次郎は高齢のため後進に道を譲り、代わって亀太郎と池下常五郎¹⁰⁾の2人を公認として立候補させる予定でした。ところが、中央の政友会が今回の選挙に当たり、守りの為、前代議士の再選を先決条件とし、新人よりも有力な前代議士を立候補させることに方針を変えたので、3区では、神戸選挙区からの転入候補の砂田重政¹¹⁾(現職、生まれは愛媛県)を持っ

9) 『愛媛県議会史 第4巻』781～787頁。

10) 北宇和郡明治村出身、蚕業家。宇和島市養蚕業組合長、愛媛県養蚕業組合連合会議員、日本族会社、池下式族機製作所経営。

11) 明治17年越智郡日吉村の出身、明治38年東京法学院大学(現中央大学)を卒業。検事をへて、神戸で弁護士を開業。大正9年5月の衆議院選挙で神戸選挙区において国民党から初当選、以後当選を重ね、国民党、革新倶楽部をへて、政友会に所属。政友会の幹部、のち昭和13年には政友会幹事長に就任。

て来、そして、現職の山村豊次郎も公認することにしました。亀太郎は、この中央の方針をいち早く理解し、立候補を断念し、山村候補の応援に専念することになりました。しかしながら、池下候補の方は、砂田が3区から出ることに反発し、また、選挙準備を行ってきた関係上、あくまで出ることを主張し、非公認で立候補しました。ここでも、政友会派は混乱、乱立状況となりました。¹²⁾ なお、この時の選挙の3区の5人の立候補者の選挙広報が高島文庫に残っています。

2月20日が投票日で、翌21日に市部で、22日に郡部で開票が行われました。選挙結果は、民政党5名、政友会4名で、政権与党の民政党側の勝利、野党政友会側の敗北となりました。1区では、民政党の武智勇記(再)、松田喜三郎(元)と政友会の大本貞太郎(再)が当選し、政友会の岡本馬太郎(新)、元政友会・中立の須之内品吉(前)が落選しました。2区では、民政党の村上紋四郎(再)、小野寅吉(元)と政友会の河上哲太(再)が当選し、政友会の近藤敏夫(新)、民政党の安藤音三郎(新)、民政系・中立の渡辺鬼子松(新)が落選しました。亀太郎の属する3区では、民政党の本多真喜雄(元)と政友会の砂田重政(再)、山村豊次郎(再)が当選し、民政党の古城貞(新)、政友会の池下常五郎(新)が落選しました。得票数は、本多候補16,909、砂田候補12,040、山村候補11,140、古城候補10,287、池下候補7,759、長尾候補793で、民政党は地区割の失敗により古城候補の落選となり、他方政友会の2人は、地区割の成功、僅差での滑り込み当選でした。¹³⁾

また、全国的にも、民政党205、政友会171、昭和会22、社会大衆党18、国民同盟15、その他35で、政権与党の民政党の勝利でした。¹⁴⁾

亀太郎は、この選挙戦で山村候補のために必死で奮闘し、当選に貢献しまし

12) 井上雄馬『山村豊次郎伝』404～405頁。

13) 砂田候補の地区割は八幡浜市、東宇和郡、西宇和郡であり、山村候補は宇和島市、北宇和郡、南宇和郡であったが、砂田候補を落としてはならないと、北宇和郡の吉田町を山村から砂田に譲り、それが成功した(井上雄馬『山村豊次郎伝』404～405頁)。

14) 『愛媛県議会史 第4巻』781～787頁。

た。選挙は終わりましたが、時の内閣は岡田啓介内閣です。そして、選挙は粛清選挙と銘打った総選挙でした。選挙後、選挙違反者検挙の嵐が吹き荒れました。政友会派の池下、山村陣営、民政党の古城陣営にそれぞれ検挙者が出ました。とくに野党の政友会派に厳しかったようです。池下候補は2月20日、投票を終えて帰宅したところを選挙違反容疑で検挙されています。亀太郎が応援した山村陣営では、2月14日に魚市場支配人中山龍が検挙され、16日には、山村タカ夫人が、そして、岡本景光(元県議)、井上雄馬(市議)、久野修蔵(市議)、常葉正成(市議)、そして亀太郎(市議)も警察に事情聴取されています。しかし、残念ながら、昭和11年の日記はなく、その詳細は不明です。なお、選挙違反(買収)で刑をうけたのは、山村豊次郎(代議士)、山村タカ(同夫人)、中山龍(魚市場理事)、橋本徳太郎(下波村前村議)、三善定雄(南予乾蘭専務)の5名であり、亀太郎ら市議は起訴されてはいません¹⁵⁾。

総選挙があったわずか6日後の、2月26日の早暁、陸軍の皇道派青年将校(栗原、坂井、中橋、安藤、野中、丹生、河野等)が、クーデターを引き起こしました。彼らは「昭和維新」を断行せんと、歩兵第一・第三連隊、近衛歩兵第三連隊など1,400余名の軍隊を率いて決起し、政府・宮廷の要人や統制派の領袖達(岡田啓介首相、斎藤実内相、高橋是清蔵相、鈴木貫太郎侍従長、牧野伸顕元内大臣、渡辺錠太郎教育総監等)を襲撃、殺害しました。このクーデターは、天皇の断固たる態度により、鎮圧されましたが、大変衝撃的事件で、以後軍部・統制派の力が一段と強まっていきました。残念ながら、この年の日記はなく、この事件を亀太郎がどう受け止めたかは不明です。

二・二六事件で、岡田内閣が総辞職しました。元老の西園寺公望は、後継首相に公爵・貴族院議長の近衛文麿を推薦しましたが、近衛が拒否したため、代わって、広田弘毅(前外相)に組閣を求め、広田は組閣をはじめましたが、軍部が組閣人事に介入し、軍部の要求を入れて、3月9日広田内閣が成立しまし

15) 井上雄馬『山村豊次郎伝』412～426頁。

た(陸軍大臣は寺内寿一、政友会から2名、民政党から2名入閣)。広田内閣は軍部の傀儡政権という色合いの強い内閣となりました。¹⁶⁾

(2) 昭和11年5月の出直しの市会議員選挙と亀太郎

さて、11年2月の衆議院選挙は宇和島市会に波瀾・汚点をもたらしました。選挙違反者を多数出し、候補者も刑を受け、市会議員の大部分が各種の疑獄事件に連座して、身柄を刑務所に収容されました。亀太郎も事情聴取を受けました。その結果、市会は定足数を欠き、存在意義を失いました。この不祥事に、市会の長老・弁護士の高松操が乗り出し、奔走の結果、市会議員全員総辞職するということになりました。¹⁷⁾

そして、11年5月5日の端午の節句の日を選び、再建のための市会議員選挙が行われることになりました。宇和島市会の定員は36名で、44名が立候補しました。政友会派が22名、民政派が13名、中立が9名で、政友会派が断然多く立候補しました。亀太郎は立候補しませんでした。また、従来の市会議員達も、若干名を除き(薬師神岩太郎、久野修造等)、多く立候補しませんでした。選挙結果は、政友会派19、民政党派14、中立3で、政友会派の勝利でした。当選した新市会議員の順位・得票・党派は次の通りです。

薬師神岩太郎(368, 政再, 会社重役), 菊池光太郎(326, 政新, 酒造業), 久松操(279, 政元, 弁護士), 松本良之助(273, 政新, 公吏), 吉原多七(246, 民元, 金物商), 岡倉市(239, 政新, 農業), 梅田富吉(226, 民新, 商業), 中川清治(222, 政新, 生魚商), 向井三治(220, 民新, 運送業), 山下善九(198, 民新, 商業), 松井市太郎(197, 民新, 鉄工業), 久野修造(196, 政再, 料理

16) 升味準之輔『日本政党史論 第6巻』347～355頁。伊藤隆『前掲書』199～206頁)。広田弘毅内閣は、軍部の要求を全面的に受け入れ、5月に陸海軍現役武官制の復活を行い、また、8月には5相会議で「国策の基準」を決定し、大陸・南方への侵略と軍備の拡大を決め、11月には日独防共協定を締結し、12年度の予算編成では大増税と公債増発による大軍拡予算を編成しています。

17) 『海南新聞』昭和14年5月27日。

業), 中田源治(190, 民新, 魚業), 山下寅松(190, 政新, 農業), 土居忠常(182, 民新, 農業), 宮崎元衛(176, 政新, 製糸業), 井上雄馬(171, 政再, 会社重役), 酒井計一(170, 政新, 農業), 福岡秀一(168, 政新, 農業), 山本友一(166, 民新, 代書業), 末広小太郎(165, 中新, 石工業), 山口藤一(165, 民元, 農業), 赤松完蔵(148, 政新, 酒造業), 坂本伊三吉(144, 政新, 農業), 河野茂吉(141, 中新, 著述業), 小原政雄(141, 政新, 米穀商), 大塚雄蔵(140, 民新, 農業), 宇都宮潔(134, 政新, 弁護士), 清田三治(133, 民新, 会社員), 丸木善平(132, 民新, 料理業), 柳瀬菊太郎(131, 中新, 農業), 中村弥八(126, 政新, 湯屋業), 住谷誠一(125, 民新, 魚具商), 中田庄太郎(123, 政新, 菓子商), 福本卯三郎(121, 民新, 会社員), 森勇五郎(103, 政新, 商業)でした¹⁸⁾

このように、再選は3人に過ぎず、ほとんど新人議員となり、議員総入替という状態でした。亀太郎も立候補せず、大正10年(1921)12月以来15年間にわたる市会議員生活に終止符を打ちました。

この市会議員選挙を受けて、5月10日、長老の久松操議員が従来の党派の解消を呼びかけ、蔦屋にて、会合が行われています。また、13日にも懇談会が行われています。久松、井上、酒井らの市政から政党色を解消せよとの主張には、政友会側は同意したものの、民政側の吉原、山口らの議員が反対し、結局決裂しています¹⁹⁾

5月15日に開かれた新市会で、議長選挙が行われ、政友派が多数であるにもかかわらず、吉原多七(民政)19票、久松操(政)17票で、吉原多七が当選し、副議長選挙では、赤松完蔵(政)19票、井上雄馬(政)15票、久松操(政)1票、薬師神岩太郎(政)1票で、赤松完蔵が当選しました(なお、副議長は、

18) 『海南新聞』昭和11年5月7日、8日、『伊予新報』昭和11年5月8日、『宇和島市誌』877頁、井上雄馬『前掲書』559～560頁。

19) 『伊予新報』昭和11年5月8日、12日、『海南新聞』昭和11年5月8日。

20) 『伊予新報』昭和11年5月16日。

直ぐ後の5月30日に井上雄馬に交代)²⁰⁾これは、政友会派の結束弱く、民政党側が多数派工作を仕掛け、政友会派の一部(赤松完蔵ら)が民政派側に寝返り、民政の吉原が当選したものと思われます。

そして、新しい市長選出のため、多数の人が候補にあがりました。政友会派は亀太郎を推し、場合によって三谷良二(前予州銀行宇和島支店長)を、他方、民政党側は菊池伝次郎(前市会議員)、川添九吉(伊予鉄鉄道電気株式会社宇和島支店長)、赤松桂(宇和島済美保育園主事、元県会議員)等の名前をあげています²¹⁾

市会で市長詮衡委員会が組織され、そこで、政友会派側は高島亀太郎を推薦し、他方、民政派は赤松桂を推薦しましたが、赤松完蔵が赤松桂を推し、委員を辞任し(赤松完蔵の寝返りです)、そして政友派の委員も辞任しました²²⁾

7月18日に市会が開かれ、市長選考委員会の山口藤一委員長(民政)が報告し、市長に赤松桂を推薦しました。それに対し、久松操、薬師神岩太郎らが痛烈に批判しましたが、選挙を行った結果、赤松桂が18票、高島亀太郎が16票、白票1票で²³⁾民政党の推薦する赤松桂²⁴⁾が第6代宇和島市長に選出されました。民政側の多数派工作の成功で、市政は再び民政党が奪還することになりました。

第3章 昭和12年の亀太郎—衆議院議員・亀太郎—

昭和12年(1937)は内閣の交代があり(広田内閣から林内閣へ、そして近衛内閣へ)、4月には衆議院選挙があり、また、日中戦争が全面化するなど、内外ともに波瀾にとんだ年です。

21) 『海南新聞』昭和11年5月18日、5月29日。

22) 『伊予新報』昭和11年7月16日。

23) 『伊予新報』昭和11年7月19日。

24) 明治9年、宇和島御殿町の士族告森桑圃の4男に生まれ、北宇和郡高光村の旧庄屋赤松新吉家の養子となり、33年東京専門学校政治科卒業し、43年高光村村長に就任(～昭和5年5月)。昭和5年5月清家吉次郎の県議補欠選挙で、民政党から愛媛県会議員に当選(～6年9月)。実兄に、告森良、清水隆徳、谷口長雄がいます。

二・二六事件の後成立した広田弘毅内閣（昭和11年3月9日成立～）は、軍部の要求を全面的に飲み、大軍拡を進めたのに対し、政党側が反発しました。12年1月の第70帝国議会において、政友会の浜田国松議員²⁵⁾が代表質問に立ち、軍部の政治関与を批判し、寺内寿一陸相と所謂「腹切り問答」を展開し、政党と陸軍の対立がますます激化しました。そこで、陸軍側が政党懲罰のために衆議院解散を主張し、他方、政党出身の閣僚や海軍が反対して対立し、その結果、1月23日広田内閣は総辞職しました²⁶⁾。日記に「昨日ハ軍部ト政党ト衝突、議会解散必至ノ情勢ナリシモ、本日ハ広田内閣総辞職ニ決シタリトノ報アリ」（1月23日）とあります。

広田内閣の総辞職の後を受けて、元老の西園寺は、1月25日、宇垣一成（元陸相、陸軍大将）を総理大臣に推薦し、天皇の大命も下りました。ところが、陸軍が宇垣を嫌い（宇垣は大正末から昭和初めにかけて陸相を務め、軍縮を進めたため）、陸軍大臣を送らず、結局宇垣内閣は流産しました（1月29日に辞退）。代わって、1月29日、林銑十郎（元陸相、陸軍大将）が首相に任命されました。日記にも「宇垣氏拝辞ノ結果、林銑十郎大将ニ大命降下シタルガ、本日組閣成レリトノ号外アリ」（2月1日）とあります。

林銑十郎は組閣に着手しましたが、陸軍内部での石原派＝「満州派」と反石原派の対立により、組閣は難航し、結局、林は、陸海軍の推薦したそれぞれの大臣（陸相は中村孝太郎、直ぐ杉山元に交代、海相は米内光政）を受け入れて、2月2日、林内閣が成立しました。政友、民政両党からの入閣はなく、政・民両党と対立した出発でした^{27) 28)}

25) 三重県選出、政友会所属、67、68議会では衆議院議長、雄弁家で知られる。

26) 升味『前掲書 第6巻』362～363頁。

27) 升味『前掲書 第6巻』363～376頁。伊藤隆『昭和史をさぐる』206～221頁。

28) このころの政友会は、昭和12年2月鈴木喜三郎総裁が病気のため、辞任し、2月28日、鈴木が中島知久平、鳩山一郎、島田俊雄、前田米蔵の4名を代行委員に指名し、また、新幹事長に砂田重政が就任し、彼らによって運営されていましたが、中島派と鳩山派との激しい派閥争いがなされ、後、分裂していきます（升味『前掲書 第6巻』376頁。同『前掲書 第7巻』113～118頁）

林内閣は、昭和12年度の予算が通過するや、3月31日、政党を懲らしめるため、勝算はありませんでしたが、衆議院を抜き打ち的に解散しました。前回の選挙からわずか1年余りしかたっていないませんでした。それにより、4月30日、第20回衆議院議員選挙が行われることになりました。

愛媛県の党派別の現有議席は、民政党5名、政友会4名です。1区(松山市、温泉郡、伊予郡、上浮穴郡、喜多郡)では、定員3名に対し、民政党が2名立てましたが(現職の武智勇記と松田喜三郎)、政友会は1名しか立てず(現職の大本貞太郎)、無風選挙です。2区(今治市、越智郡、周桑郡、新居郡、宇摩郡)では、民政党が2名を立て(現職小野寅吉、新人の村瀬武男)、政友会も2名を立てました(現職の河上哲太と元職の森昇三郎)。さらに、社会大衆党から林田哲雄、東方会から渡辺鬼子松、無所属から拝田正寿、竹田安治が立候補し、乱戦です。

亀太郎の属する3区(宇和島市、八幡浜市、西・東・北・南宇和郡)では、民政党が2名立てました。3区の民政党の現職議員は本多真喜雄ですが、本多は引退し、代わって前回2区から出た現職の村上紋四郎が3区に回り、もう1人は元職の村松恒一郎が出ました。それに対し、政友会も2名立てました。政友会の現職議員は山村豊次郎と砂田重政ですが、山村は、高齢を理由に引退し、その後継者として、亀太郎が立候補することになり、もう1人は現職の砂田重政が引き続き出ました。定員3人を有力候補4人が争う激戦です。政友会側の地盤割は、砂田が八幡浜市と東西宇和郡を、亀太郎が宇和島市と南北宇和郡となっています。宇和島市・南北宇和郡を地盤として真っ向から戦ったのが、政友会の亀太郎と民政党の村松です²⁹⁾村松と亀太郎の関係は、実は明治・大正期には先輩後輩の間柄です。亀太郎は、前にも述べましたように、元々国民党员で、久松操らと共に、国民党の村松恒一郎の為に大いに尽力していました。国民党が解党し、政友会に合流したときに、亀太郎は政友会に入りましたが、村

29)『伊予新報』昭和12年4月12日。

松は民政党に行き、袂を別っていました。亀太郎は昔の先輩と戦うことになりました。

残念ながら、昭和12年の日記は3月27日までしか記されておらず（選挙で忙しく日記を記す時間がなかったと思われます）、選挙の具体的状況は不明です。

ただ、別の資料（新聞、高畠文庫所蔵資料等）により、選挙の状況を補っておきましょう。亀太郎の推薦届け者は親戚の中村惣八（妹ハルの夫、元市会議員）です。選挙事務所は、追手通りの「いろは」に置いています³⁰⁾

亀太郎は4月15日より遊説を開始し、19日～23日は津島郷にて、24日は宇和島市にて、25日は吉田町にて、演説しています。また、19日からは別働隊も組織し、日振戸島などの島嶼部の遊説をしています³¹⁾

亀太郎の総選挙の演説原稿の草稿が残っています。貴重な資料であり、亀太郎の政治的信条、態度が見られますので、少し長いですが、掲載しておきましょう。

「一、今度の解散の責任を公平に考へて七分は政府の方が無理だと思います。

一、然し此の無理を再びせられぬよう政党自身も其内容を改め、党弊を刷新して他から彼是云はれる隙のないよう真面目且強固なものとならねばなりません。

一、これから後も国民大衆が政府の遣り方を良いと見るか政党の出方に味方するかは懸って政党の健全性如何にあります。

一、政党が真に国民の信頼を繋ぎ得るならば、現下の鬱陶しい政情は解消して明朗且常道に帰り、本当の憲政が樹立されるのであります。

一、それには国民の代表である代議士を選ぶ時から選挙者も被選挙者も思

30) 「伊予新報」昭和12年4月12日、高畠文庫「衆議院議員候補者推薦届」。

31) 「伊予新報」昭和12年4月18日、20日。

を此処に致して、根本より正しき選挙を行なわねばなりません。

一、選挙粛清と云うことは、此見地より出発して始めて真の意義をなすと思います。

一、若し私が当選致しましたならば、此点に就ては断じて諸君の御期待に背きません。私が其一員に加はるによって議会在幾分清く正しくなることが出来れば、私を選出して下さる第一の意義が達せらると思ひます。

一、仮令、私の主義に就て賛成して下さる方も然らざる方も、従来の私の政治的行動より見て此一事のみはお認め下さることと信じて居ります。是れが私の微力ながらも心強い点であります。

一、私は従来自分の立場と職分には忠実であつたと存じて居ります。今後地方選出の代議士として立つには何を目標として致しますか。

一、申す迄もなく、農村漁村の振興と中小商工業者の救済に其重点を置くべきであります。

一、都会と地方との富力の均衡を計り、国民生活の安定の為に尽すことが、私の当然の任務であります。

一、今後私の総ての政治的出处は之れを基礎として忠実且熱心に其全力を注ぎます。

一、地方財政調整交附金の増額、肥料国策の確立、農業保険法の実施、商工組合中央金庫の強化等、主として地方経済力の充実増進に対する施設を実現させねばならぬのであります。

一、私は二十年来多数の養蚕家に接して密接の関係を有して居りますから、よく農村の事情を知って居ります。殊に躬ら手を下して養蚕をする人の真の心持を最よく知って居る積りであります。彼の産繭処理統制法の如きも、既に法の実施を見て居りますので、問題は解決済ありますが、私共は今後円滑に之れを運用することによって、養蚕、製糸業者の間に親密にし、共存共栄の趣旨に基きて蚕糸業全体の発達進歩を計らねばならぬものと思ひます。

一、私は昨年来此大の見地よりして乾蘆組合と製糸業者間の対立的關係を解消し、一意協調和衷の方針に出て居ること、諸君御承知の通りであります。

一、私は一面商工業に従事して居りますから地方小都市に於ける中小業者の困難なる実情も充分に存じて居ります。産業組合と商工業者との間を調整し、各本来の立場によって発達伸長を妨げざる様、適當なる法規の制定を見ねばなりません。

一、余り都合の好い政策ばかりを申し上げることは私の為し得ざる所ではありますが、農村漁村の隆昌が小都市の繁栄と一致して居る以上、選挙区全体の利害關係は共通であります。

一、要は、地方經濟と農村の実情を正当に認識して誠実に自分の職分を尽して行くなれば、諸君は必ず私を理解し、援護して下さるものと信じて居ります。

一、私は茲に覚悟を新たにして選良としての正道を邁進致します。切に諸君の御贊助を冀ふ次第であります。

一、私の政治的経歴は選挙区民各位略御承知かとも存じますが、大要左の通りであります。

明治四十四年一月	宇和島町会議員当選
大正三年一月	宇和島町会議員当選
大正八年九月	北宇和郡選出愛媛県会議員当選
大正十年十二月	宇和島市会議員当選
大正十二年九月	愛媛県会議員当選
大正十五年十月	宇和島市会議員当選
昭和二年九月	愛媛県会議員当選
昭和四年十二月	愛媛県会副議長当選
昭和五年十月	宇和島市会議員当選
昭和九年十月	宇和島市会議員当選

昭和九年十月 宇和島市会議長当選

一、私の公職業歴は現在左の通りであります。

宇和島商工会議所会頭

愛媛県製糸業組合長

愛媛県蚕糸業聯盟会議員

全国製糸業組合聯合会議員

愛媛県工場研究会副会長³²⁾

さて、総選挙の選挙結果は、1区は無風選挙で、民政党の武智勇記(再)、松田喜三郎(再)、政友会の大本貞太郎(再)が当選しています。2区では、民政党の小野寅吉(再)、村瀬武男(新)、政友会の河上哲太(再)が当選し、政友会の森昇三郎、社会大衆党の林田哲雄、東方会の渡辺鬼子松、無所属の拝田正寿、竹田安治が落選しています。注目の3区では、砂田重政19,319票、高畠亀太郎15,875票、村上紋四郎10,999票、村松恒一郎8,180票で、政友会の砂田(再)、高畠亀太郎(新)、民政党の村上紋四郎(再)が当選し、民政党の村松恒一郎が落選しました。宇和島市、北・南宇和郡では亀太郎が先輩の村松を圧倒的に引き離し、亀太郎は2位で当選し、初の衆議院議員になりました。亀太郎54歳の時です。

その結果、愛媛県では、民政党5、政友4となりましたが、勢力は前回と同様で変わりません。

全国的には、民政党179、政友会175、社会大衆党37、昭和会19、国民同盟11、東方会11、日本無産党1、中立その他33で、民政党が議席を減らし、政・民伯仲し、また社会大衆党が議席を増やしている点が特徴です。なお、林内閣与党の昭和会と国民同盟はあわせて30名しか当選せず、依然として、内閣と政・民両党との対立状態が続きました。

総選挙結果を受けて、林内閣は少し居座りましたが、政友・民政両党は林内

32) 高畠文庫「衆議院選挙演説原稿」。

閣の即時退陣を要求し、結局、5月31日林内閣は総辞職しました。同内閣はわずか4月足らずの短命内閣に終わりました。

林内閣総辞職の後を受けて、元老の西園寺公望は、時期首相に、当時各方面から期待されていた公爵・貴族院議長の近衛文麿を推薦しました。この時は近衛が受け、6月4日、近衛内閣が誕生しました。陸相の杉山元と海相の米内光政は留任し、政党からは、総裁にはかることなく、民政党の永井柳太郎、政友会の中島知久平をごぼう抜きして、成立しています³³⁾

近衛内閣成立の1ヵ月後、7月7日に盧溝橋で日中両軍が衝突する事件が勃発しました(盧溝橋事件)。事件は偶発的におこったようですが、日中全面戦争の発端となりました。7月11日、現地で停戦協定が成立しましたが、同日近衛内閣は華北の治安維持のための派兵を声明し、7月28日、日本軍は華北で総攻撃を開始し、また、8月13日には上海でも日中両軍が交戦し、戦争が拡大していつてます。そして、8月15日に近衛内閣は「暴支膺懲」の声明を出し、対中国全面戦争に踏み切っています。また、近衛内閣は日中戦争遂行のための国内体制を整えるために、8月国民精神総動員運動を開始し、9月3日には第72臨時議会を召集し、臨時軍事費特別会計法、臨時資金調整法、輸出入品等臨時措置法、軍需工業動員法の適用に関する法律等を成立させるなどしています。

日本軍は、上海で中国軍と激しい戦闘を行い、大きな損害を被りましたが、11月上旬中国軍を退却させると、国民政府の首都南京に向かって進撃を拡大し、12月13日南京を占領し、南京大虐殺を引き起こしていたことは周知の通りです(ただし、国民には伏せられていました)。

近衛内閣に対する政友会の態度は友好的であり、また、日中戦争に対しては、党をあげて戦争遂行を支持し、法案にも賛成していました

亀太郎が衆議院議員になって以来、昭和12年7月23日に第71特別議会(～8月7日)、9月3日に第72臨時議会(～9月8日)、12月24日に第73通

33) 升味『前掲書 第7巻』8～13頁。

常議会（～13年3月26日）が開催されており（いずれも近衛内閣）、亀太郎も上京し、政友会の1年生議員として、議会に臨んでいます。日中戦争の全面化、泥沼化、国内戦争体制の構築に対し、亀太郎は如何なる心境であったのでしょうか。残念ながら、この時の日記はなく、不明ですが、政友会の方針に当然従い、戦争協力の態度であったことは間違いありません。

第4章 昭和13年の亀太郎

昭和13年（1938）1月16日、近衛内閣は対中国和平交渉を打ち切り、「帝国政府は爾後国民政府對手とせず」との声明を発表し、蔣介石政権を武力で倒す強硬方針を出しています。そして、この年の第73帝国議会で、近衛内閣は国家総動員法を成立させています（4月1日公布）。議会で、民政・政友は激しく抵抗しましたが、結局は賛成しています。この議会に亀太郎は代議士として上京したと思われませんが、残念ながら昭和13年の日記はなく、この時の状況は不明です。

この年、日中戦争は拡大・泥沼化し、日本軍は5月に徐州、10月には広東、武漢を占領するなど、戦線をますます拡大しています。

さて、宇和島市政の方に目を向けましょう。市長は民政党の赤松桂が引き続き担当していましたが（昭和11年7月27日～13年5月15日）、3月7日、前代議士山村豊次郎と前市長井上源一が赤松市長を訪問し、非常時局の折り徒に抗争を続けるのは銃後守護の本分にもとるとして、「自治体の円滑を期する意味に於て、若し勇退の意思があるのなれば、予算市会前に辞職しては如何」と勧告しましたが³⁴⁾、赤松市長はその勧告を受け入れ、任期途中の3月15日に退任しました。代わって、つなぎとして、宇和支庁長の米岡伊太郎が市長職務管掌に就任し（13年3月15日～7月30日）、4ヵ月余り市政を担当しています。

新市長選びですが、7月26日宇和島市会が開催され、市長選挙が行われ、そ

34) 『伊予新報』昭和13年3月2日、8日。

の結果、第7代新市長に民政党推薦の樋口虎若³⁵⁾が選出され、引き続き民政党市政が続きました。

樋口市長時代の9月20日、宇和島の政友会派は宇和島政友倶楽部を結成しています。その備忘録が高島文庫に残っています。それによりますと、20日の午前に山村邸に会合し、宇和島政友倶楽部を結成し、会長に高島亀太郎、幹事に牧野虎恵、井上雄馬、二宮卓、中村弥八、顧問に久松操、山村豊次郎を選んでいます。主なメンバーは、前記の外、三浦鉄蔵、春日屋宋太郎、酒井計一、中村助市、常葉正成、森勇五郎、田中又雄、初木棟太郎、山本友一、野崎正男、赤松勲、大野喜十治、宮崎元衛、黒岩徳、久野修造、梁瀬菊太郎、住田満男、久留島豊、片山飛佐吉、大野庄一、山本萬吉、境文夫らです³⁶⁾。10年9月の県会議員選挙で喧嘩別れした、井上源一、薬師神岩太郎、久都直太郎らは勿論入っていません。そして、亀太郎は21日に政治結社の届け、22日に市会議員候補者推薦届けを出しています。亀太郎が宇和島政友会の中心となっていたことが分かります。

同じ日の9月20日の夕方、病氣療養中の、元宇和島市長で元政友会代議士の山村豊次郎が食道癌のため亡くなりました。

9月25日に市葬が行われ、多数が参列し、亀太郎が弔辞を述べています。弔文が残っていますので、掲載しておきましょう。

「山村豊次郎氏政治界ニ活動スルコト五十年、自由党以来立憲政友会ノ今日ニ至ル迄終始愉ラズ、一政党一主義ノ下ニ克ク積極進取ノ方策ヲ貫ク、夙ニ国政ニ参与シ、後亦自治政ノ局ニ当リ、時ニ一身ヲ抛テ民権ノ伸長ト憲政擁護ノ為ニ闘ヒ、時ニ毀誉褒貶ヲ顧ミズシテ地方開発ト公共事業進展ノ為メニ尽瘁ス。特ニ宇和島市政ニ関シテハ市制実施に貢献セルノミナラズ、衆望ヲ負フテ初代

35) 医師。明治5年北宇和郡吉田町に生まれ、27年第3高等学校を卒業。33年宇和島広小路にて医師開業。大正3年宇和島町会議員、4年北宇和郡会議員、10年12月宇和島市会議員に就任。市長に昭和13年7月30日に就任、14年5月17日退任。

36) 高島文庫「宇和島政友倶楽部備忘」

市長トナルヤ、一挙ニシテ港湾改修、水道布設、河川附替等ノ諸計画ヲ完成シ、所謂市百年ノ大計、氏ノ手ニ依リテ始メテ確立ヲ見ルニ至レリ。着眼ノ遠大、経綸ノ雄揮、地方政治家トシテ前後其ノ比ヲ視ズ。此間屢々磐根錯節ニ遭遇セルモ、之レニ処シテ解決流ル、ガ如キモノアリシハ、一ニ其徳望ト手腕ニ由ルモノナリト云フベシ。既ニ市長ノ職ヲ去リ、政界ノ第一線ヲ退キテ後ト雖、念頭常ニ宇和島市政ヲ忘レズ、身ヲ終ル迄市会堅実化ノ為メニ傾注シタルハ、以テ政界人ノ範スルニ足ル。生等後進ノ徒景仰措カズ、今ヤ其逝去ニ際シ、深ク遺業ト余徳ヲ憶ヒ追慕哀愁禁ズル能ハズ、茲ニ郷土民衆ノ衷情ヲ致シ、地方政客ノ敬意ヲ表ハシ、謹デ弔辞ヲ述ブ。

昭和拾参年九月貳拾五日

衆議院議員 高島亀太郎³⁷⁾

さて、樋口民政党市長時代の昭和13年10月10日に、宇和島市会議員の改選(定員36名)が行われました。この市会議員選挙には定員大幅超過の68名が立候補しました。民政派は27名、政友会派は25名、政友会から分裂した革新派(薬師神岩太郎ら)が10名、中立が6名立候補しています³⁸⁾ 激戦です。そして、相変わらず、選挙違反による検挙者が続出しました³⁹⁾

選挙結果は、民政党18、政友会10、革新6、中立2となり、民政党が勝利しました。この時の当選市会議員の得票、党派は次の通りです。勝村福市(216, 中再, 海運業), 家木浅次郎(190, 民新, 商業), 宮崎元衛(178, 政再, 製糸業), 川添九吉(175, 民再, 保険業), 土居忠常(173, 民再, 会社員), 薬師神岩太郎(171, 革元, 会社重役), 森熊太郎(165, 民新, 造船業), 山下善九(160, 民再, 材木業), 河野直(159, 革新, 呉服商), 原熊太郎(156, 民新, 建築請負業), 福島勇助(154, 革新, 醤油醸造業), 佐々木饒(151, 民再, 会社重役), 山本友一(146, 政新, 海運業), 岡里甚蔵(144, 民新, 農業), 向井三治(143,

37) 高島文庫「山村豊次郎氏への弔辞原稿」

38) 『海南新聞』昭和13年10月4日。

39) 『伊予新報』昭和13年10月9日。

民再、海運業)、松本良之助(140, 中再、無職)、森口正則(135, 民新、蚕業指導員)、越智真澄(135, 革新、会社重役)、宮川勝太郎(131, 民新、製糸業)、牧野虎恵(131, 政再、会社重役)、福井龍之助(130, 政新、会社重役)、佐々木仁三郎(127, 民新、農業)、二宮卓(124, 政新、弁護士)、吉原多七(122, 民再、金物商)、水口常吉(121, 民新、農業)、土居義雄(121, 民新、洋品雑貨商)、河野武重(120, 民新、会社重役)、黒岩徳(118, 政新、無職)、久野修造(114, 政元、カフェー業)、田中又雄(113, 政新、製陶業)、宇治原基泰(112, 民新、農業)、松井市太郎(112, 民再、鉄工業)、河野嘉都馬(111, 革新、会社重役)、森勇五郎(108, 政再、青果商)、中田庄太郎(106, 革再、菓子商)、境文夫(106, 政新、農業)。次点片山飛佐吉(105, 政、農業)。⁴⁰⁾

後、佐々木仁三郎(民)、原熊太郎(民)の当選は無効となり、片山飛佐吉(政)、白石知次郎(革新、歯科医師)が当選しています。⁴¹⁾

市会議員選挙における民政党の勝利により、民政党の樋口市長支持の陣容が固まりました。

なお、10月25日に市会の議長・副議長選挙があり、議長に牧野虎恵(政友)、副議長に宇治原基泰(民政)が満場一致で選出されています。多数派の民政党が議長を政友会に譲ったのは、議会円滑化のためと思われます。⁴²⁾

しかし、この市会議員選挙に対し、前市会議員の梁瀬菊太郎(政友会)外一名が、選挙無効の異議申し立てを行いました。今回の市会議員選挙は、前回の定期改選の9年10月10日の選挙から起算して4年経過の選挙ですが、11年の春の不祥事により市会が総辞職して、11年5月5日に再建のための市会議員選挙が行われていますので、それから数えますと、まだ2年と5ヵ月余りしか立っておらず、任期途中の選挙でした。そこで、柳瀬らは、11年5月5日の市議会議員選挙で当選した議員の任期は4年後の15年5月4日までであり、議員の任

40) 『海南新聞』昭和13年10月13日。

41) 『宇和島市誌』877頁。

42) 「伊予新報」昭和13年10月25日。

期中に勝手に行ったこの市議員選挙は無効であると異議を申し立てたのでした。しかし、10月24日の市議会(新議員で構成)では、当然ですが、この梁瀬の異議申し立てを却下しました。それに対し、梁瀬は愛媛県にも訴願しましたが、却下され、そこで、行政裁判所に訴えたのでした⁴³⁾

行政裁判所の判決は後に見ますように、翌14年5月26日に出ています。行政裁判所は、柳瀬の訴えを認め、13年10月の選挙は無効、当選議員の資格無効との判決を下しました。その結果、現職議員は全員失格、前回(昭和11年5月)当選した市議員が復活するという前代未聞の醜態となりました。宇和島市会は政争と混乱が続いています。

第5章 昭和14年の亀太郎

昭和14年(1939)の1月4日、近衛文麿首相は、中国との戦争が長引き、中々解決せず、またドイツとの防共協定の強化をめぐる閣内の対立に嫌気がさして、内閣を投げ出し、近衛内閣は総辞職しました。そして、近衛の後継首相に、平沼騏一郎(枢密院議長)が任命され、1月5日に平沼内閣が成立します。平沼内閣の閣僚は、その半数以上が近衛内閣からの留任で、事実上近衛内閣の延長といった色彩の強い内閣です。政党からは、民政党の桜内幸雄と政友会の前田米蔵が入閣しています⁴⁴⁾

しかし、この平沼内閣も短命で、8月23日の「独ソ不可侵条約」の締結に驚き、「欧州情勢複雑怪奇」と声明して総辞職し、阿部信行(陸軍大将)内閣(8月30日成立)に代わっています。だが、この阿部内閣も4ヵ月余りしか続かず(～15年1月14日総辞職)、昭和14年は不安定な政権が続きました。

この昭和14年は、亀太郎の人生にとって大変重大な年でした。亀太郎は衆議院議員でありながら、宇和島市政の政争・ゴタゴタから、6月、急遽第8代宇和島市長に選出されています(市長と衆議院議員の兼務)。亀太郎にとって、多

43) 『伊予新報』昭和13年10月19日、『海南新聞』昭和14年5月27日。

44) 升味準之輔『前掲書 第7巻』118～122頁、伊藤隆『前掲書』263～266頁。

忙極まる年となりました。この年は日記がありますので、以下少し詳しく見ましょう。

(1) 衆議院議員としての亀太郎

亀太郎は、昭和14年1月に再開された、平沼内閣下の第74帝国議会に出席のため、1月25日午後2時に宇和島を出発し、上京の途についています。亀太郎は宇和島～大洲間は貸切自動車にて、大洲～松山間は国鉄を利用し、⁴⁵⁾ その日は松山に泊まり、翌26日松山を出て今治まで国鉄に乗り、今治から尾道まで船に乗り、尾道から神戸へ国鉄で行き、神戸で9時20分発の夜行列車に乗り、翌27日の朝8時30分に東京に到着しています。長旅です。東京での宿舎は呉服橋の龍名館を常宿にしています。また、亀太郎は委員会では請願委員会に所属しています。

以下、日記に第74議会（～3月25日閉会）での議員活動の状況が詳しく記されていますので、紹介しておきましょう。

1月27日(金)は、請願委員会、政友会の政務調査会等に出ています。「十時衆議院ニ登院シ、請願委員会ニ出席ス。佐保委員長ヲ議長トシテ分科ノ区分、主査及ビ部属ノ配置ヲ定メ、予ハ第四分科(司法、文部、鉄道省所管)ニ属スルコト、ナレリ。政友会ノ政務調査会ヘモ出席シ、又少時予算委員会ヲ傍聴シテ、午後一時帰宿。先日来到着ノ各種文書ヲ整理シ、六時ヨリ有楽町帝国鉄道協会ニ於ケル農政研究会ノ總會ニ出席ス。上京中ノ宮田、稲本県議等ニ会フ。農村関係ノ諸問題ヲ決議シ、予モ一言スル所アリ。会了ッテ食堂ヲ開キ、大本、小野、村瀬、松田ノ諸君ト卓ヲ共ニス。九時過散会、帰宿ス」。記事で、宮田は宮田愛明(喜多郡選出県会議員、政友会)、稲本は稲本早苗(越智郡選出県会議員、政友会)、大本は大本貞太郎(第1区選出衆議院議員、政友会)、小野は小野寅

45) 国鉄予讃線は松山～大洲間は昭和11年9月19日に開通していましたが、大洲～八幡浜間が開通するのが、14年2月6日であり、宇和島まではまだ未開通で(『愛媛県史概説 上巻』46頁)、バスを利用しています。

吉（第2区選出衆議院議員，民政党），村瀬は村瀬武男（同），松田は松田喜三郎（第1区選出衆議院議員，民政党）です。

1月28日(土)は，政友会の代議士会や本会議に参加等しています。「午前在宿。手紙ヲ書キナドシ，正午登院ス。○時半，例ニヨリ第八控室ニテ政友会ノ代議士会アリ。午後一時愛媛，香川，広島，岡山各県選出ノ代議士ト共ニ両院協議会室ニ於テ荒本文相ニ会見シ，県立商船学校ノ問題ニ就テ当局ノ意向ヲ確ム。後，本会議ニ出席シ，四時前散会ノ上，龍名旅館ニ帰ル。六時ヨリ赤坂永楽ニ於ケル砂田幹事長ノ四国選出議員招待宴ニ行キタリ」。記事で，砂田幹事長は愛媛県選出の衆議院議員砂田重政で，13年より政友会幹事長をしています。

1月30日(月)は，鉄道問題について協議しています。「午前数名ノ来訪者ニ接シ，十一時過登院。本日ハ本会議ナキモ，院内幹部室ニテ大本君ト共ニ砂田氏ニ会ヒテ，鉄道問題ニ就キ談ズ。午後三時帰宿。夜，市中散歩，新美好ヘモ寄りタリ」。

1月31日(火)も，地元議員，知事等と鉄道問題について協議しています。「午前十時半衆議院ヘ行キ，午後一時ヨリ本会議ニ出席ス。四時過帰宿。六時西銀座交詢社ヘ行キテ，砂田氏始メ愛媛県ノ政友代議士全部及ビ来京中ノ古川知事等ト会合，鉄道問題ニ就テ協議シ，夕食ヲ共ニス。後，佐々木長治氏ノ案内ニテ，河上哲太氏，和田清治君等ト共ニ築地新中ヘ行キ，清談シテ，十一時旅館ニ帰ル」。記事で，佐々木長治は予州銀行頭取，元衆議院議員（この年9月貴族院多額納税議員に就任），河上哲太は第2区選出の衆議院議員（政友会），和田清治は西宇和郡選出の元県会議員（政友会）です。鉄道問題で多数の陳情団がきていることが分かります。

2月1日(水)は，請願委員会に出席等しています。「十時衆議院ヘ行キテ，商船学校問題ニテ，関係各県ノ代議士ト民政党政務調査室ニ於テ会合打合ヲナス。午後一時請願委員会第四分科会ニ出席シ，四時帰宿。五時過丸之内東京会館ヘ行キテ，和田清治君及ビ上京中ノ井上雄馬君ト夕食ヲ共ニシ，後，井上君龍名館ニ来訪，十一時過迄談ズ」。井上雄馬は元宇和島市会議員（政友会）です。

2月2日(木)は、鉄道建設について要請等しています。「午前九時過衆議院へ行き、副議長応接室ニテ原代議士ニ会ヒ、十時兩人ニテ院内大臣室へ行きテ、塩野兼任逋相ニ会ヒタル上、更ニ逋信省ヲ訪ヒテ、秘書課長鈴木恭一氏トモ談ズ。午後一時ヨリ衆議院本会議ニモ出席シ、又政友会幹部室ニテ砂田、河上、大本ノ各代議士ト共ニ前田鉄道大臣ニ面会シテ西宇和ノ鉄道ニ就テ陳述ス。本会議散会後、直チニ予算委員会ヲ傍聴シ、秘密会トナリテ、青木企画院總裁ヨリ生産拡充及ビ物資総動員四ヶ年計画ニ就テ説明アリ。六時迄聴キテ帰宿ス」。

2月3日(金)には、東京を一時離れ、松山に帰っています。それは、2月6日に行われる大洲～八幡浜間の国鉄開通式に臨むためです。

2月6日の日記に「午前八時国鉄駅発ノ臨時列車ニ乗ジテ松山ヲ発シ、本日ヨリ開通ノ八幡浜駅ニ向フ。十時半着。車中ニテ出合ヒタル古川知事、城戸課長、宇和川県会議長ト共ニ八幡浜警察署ニテ休憩ノ上、正午ヨリ小学校講堂ニテ挙行ノ国鉄松山一八幡浜間ノ開通式ニ列ス。今日新ニ運転ヲ開始セルハ平野一八幡浜間ナリ。式了リテ後、予ハ公会堂ニ於ケル祝賀会ニハ行カズ。樋口宇和島市長ト共ニ市中ニテ食事ノ上、午後三時半発ノ三共乗合自動車ニ乗リテ宇和島ニ帰レリ」とあります。

2月11日(土)の午後、再び議会に出席のため、上京し、翌々日の13日の朝8時東京に到着しています。

2月13日(月)は、本会議に出席等しています。「午前八時東京ニ着シ、呉服橋龍名館ニ投宿ス。十時蚕糸会館ニ於ケル第二回蚕糸業時局対策研究会ニ出席ス。予モ意見ヲ述ブル所アリ。正午過会中途ニシテ退席シ、衆議院ニ登院ス。代議士会ノ後、午後一時ヨリ本会議開カレ、豫テ予算委員会通過ノ十四年度総予算及ビ特別会計予算、合セテ参拾七億円ノ大予算ヲ上程。桜井委員長報告ノ後、民政ノ前田房之助氏、政友ノ大口喜六氏、其他各派代表ノ賛成演説アリテ、五時無修正可決ス。又院内ニテ原君ニ遇ヒ話ス所アリ。六時旅館ニ帰ル」。

2月14日(火)は、委員会や本会議に出席し、また、宇和同郷会に出ています。「午前十時過登院、昭和十四年度公債発行ニ関スル委員会ニ出席シ、正午丸之

内会館ニ於ケル宇和同郷会ニ火会ニ行ク。在京ノ地方出身有力者ノ毎月一回会食ノ会ナルガ、席上、二神、小竹、宇都宮、浜田、武藤ノ諸氏ニ会ヒ、又勸メラル、儘、予、起ッテ議會ノ状況及ビ郷里ノ近情ヲ陳ブ。二時再ビ議會ニ歸リテ、本會議ニ出席。対ソ連問題決議案議決ノ後、五、六ノ法律案ヲ上程。又、塩野通相ニモ会ヒタルガ、五時過迄議會ニ居リテ帰宿ス」。

2月15日(水)は、請願委員会に出席等しています。「正午過興亞院ニ中村純一君ヲ訪ヒテ談ジ、二時過逋信省ニ鈴木秘書課長ヲ訪フ。三時辞シ、転ジテ衆議院ノ請願委員分科会ニ出席シ、五時蚕糸会館ノ製糸業組合連合会ヲ訪ヒタリ」。

2月16日(木)は、本會議に出席しています。「午前十一時過登院、午後本會議ニ出席シ、四時過散会ス。中途東京駅ヘモ行キ又六時ヨリ東宝歌劇ヲ観タリ」。

2月17日(金)は、委員会に出席等しています。「午前商工省ヘ行キテ商務課ノ柿原技師ニ会ヒ、正午登院、院内ニテ鉄道大臣官房文書課長堀木氏ニ会フ。一時ヨリ委員会ニ出席シ、三時歸リテ夜八時半迄書類ヲ整理ス」。

2月18日(土)も登院しています。「午前十一時登院、政府委員室ニテ倉元司法政務次官ニ会フ。午後四時帰宿」。

2月20日(月)は、委員会に出席等しています。「午前十一時半登院。二ツノ委員会ニ出席シテ、午後三時帰宿シ、来訪ノ山崎キクト共ニ四時ヨリ歌舞伎座観劇ニ行ク。又愛媛県ヨリ相田、岡本、行本ノ諸氏、学校問題ニテ来京、県選出代議士ヲ招待ニ就キ、夜七時赤坂、錦水ヘモ行キタリ。再ビ歌舞伎座ヘ返リ、十時前キクト別レテ龍名館ニ帰ル」。相田は相田梅太良(伊予郡選出の県会議員、民政党)、岡本は岡本馬太郎(温泉郡選出の県会議員、政友会)、行本は行本頼助(周桑郡選出の県会議員、政友会)です。

2月21日(火)は、委員会に出席し、また、高等工業学校新設の陳情、鉄道建設の建議案を起草しています。「午前十時ヨリ衆議院ニ登院シ、委員会ニ出席ス。正午院内大臣室ニテ愛媛県ノ各代議士ト共ニ県会ノ上京委員ヲ伴ヒテ、石渡蔵相、荒本文相及ビ青木企画院總裁ニ会ヒ、高等工業学校新設ノコトヲ陳情ス。

午後一時ヨリ本会議ニ出席，増税案ニ対スル各派代表ノ質問アリ。六時過宿ニ帰リテ，夜，宇和島・宿毛間鉄道建設ニ関スル建議案及ビ，吉野・窪川間鉄道速成ニ関スル建議案ヲ起草シ，十一時浄書ヲ了ル」。

2月22日(水)は，委員会に出席し，また鉄道建設の建議案を提出しています。

「十一時登院，院内ニテ商工政務次官今井健彦氏ニ会ヒテ，鉱山監督局関係ノ要件ヲ話シ，正午鉄道省ヘ行キテ堀本文書課長ニ会フ。午後一時ヨリ衆議院本会議ニ出席シ，又請願委員会第四分科会ニ出席シテ，長浜・八幡浜間省営バスノ請願ヲ紹介説明シ，採択ヲ得，更ニ鉄道速成ニ関スル，予提出ノ建議案式通ニ議員三十余名ノ賛成署名ヲ受ケテ提出ノ手續ヲナス」。

2月23日(木)は，本会議に出席等しています。「午前中村純一君ヲ興亞院ニ訪フ。十一時過登院。午後一時ヨリ本会議ニ出席シ，五時退出。山王下錦水ニ於ケル愛媛県関係代議士ノ晚餐会ニ行キ，八時宿ニ帰レリ」。

2月24日(金)は，立川にある陸軍航空隊の見学をしています。「貴衆両院議員，立川陸軍航空隊見学ノ日ナレバ，朝，予定ノ如ク東京駅ヘ行キ，九時一分発ノ臨時電車ニテ新宿經由立川ヘ出デ，西立川駅ニ下車，一同飛行場ニ到ル。十時三十分ヨリ安田少将其他ノ実地説明アリテ後，飛行演習行ハレ，戦闘機，重爆撃機等上空ニテ，数回編隊飛行，演習ヲ行ヒ，操縦ノ妙技ヲ発揮ス。正午研究部内ニテ，航空糧食ノ午餐アリ。午後一時ヨリ電車ニテ吉祥寺ヘ移動シ，中島飛工〔行〕機製作所ヲ見学ス。大集会場ニテ休憩ノ上，社長ヨリ大体ノ説明ヲ聴キ，更ニ二十数组ニ別レテ，夫々ノ案内者ニ指導サレ，広大ナル製作工場ノ各部ヲ視，三時半辞シテ駅迄送ラレ，四時過東京ニ帰レリ」。

2月25日(土)は，蚕糸連の委員会，本会議等に出席しています。「午前十時半ヨリ蚕糸会館ニ於ケル製糸連ノ蚕糸業対策委員会ニ出席ス。今井，平野ノ正副会長以下十余名ニテ蚕糸業一元化問題ヲ中心トシテ議ヲ凝ラシタルガ，徹底的ノ明意見ナク，午後五時ヲ過ギテ漸ク一応ノ成案ヲ得ルニ至レリ。之レヲ以テ，近日ノ中央会ノ委員会ニ臨ム筈。予ハ午後二時頃，少時議會ノ本会議ニモ出席シタルガ，夜ハ六時半ヨリ，砂田氏主催ノ旧革新俱樂部系ノ貴衆議員招待会ニ

赤松永楽ニ招カレ行ク。芳澤謙吉、大口喜六等ノ諸先輩ヲ始メ中井、星島ノ諸氏十余名ニテ国民党ノ昔ヲ語り、有意味ノ会ナリキ」。

2月27日(月)は、委員会に出席等しています。「十一時登院。委員会ニ出席シ、又三瓶駅ノ件ニテ砂田氏ト談ズ。午後四時商工省ヘ行ク。夜、上野ノ寄席ヘ行キテ落語ヲ聴キタリ」。

2月28日(火)は、委員会、本会議に出席し、また、鉄道問題の陳情等しています。「午前十時半登院。委員会ニ出席シ、又政府委員室ニテ鉄道省文書課長ニ会ヒ、政友会幹部室ニテ今井商工政務次官ニ会フ。砂田氏、原惣兵衛君トモ会談ノ上、午後二時ヨリ本会議ニ出席ス。三時和田清治君ヲ院内ヘ招キテ、砂田氏ト共ニ会見シ、鉄道省トノ交渉結果ヲ話ス。本会議ハ外務大臣ヨリ秘密会ノ要求アリテ、上海テロ事件ニ関スル租界工部局交渉ノ中間報告アリ、五時散会。予等ハ代行前田米蔵氏主催丁丑会代議士招待会ニ鉄道大臣官邸ヘ行キ、秘書官羽田君ノ斡旋ニヨリ鉄道映画ヲ観覧ノ上、支那料理ノ饗ニ預リ、八時半辞シテ旅館ニ帰ル」。

3月1日(水)は、委員会に出席しています。「午前十時登院。政務調査室ニテノ協議ニ出デ、午後二ツノ委員会ニ出席シテ三時過帰宿。書類ノ整理ニ従事ス。八時ヨリ市中ニ出デ新宿ヲ散歩ス」。

3月2日(木)は、建議委員会に出席し、亀太郎が吉野・窪川間及ビ宇和島・宿毛間の鉄道速成建議を提案し、可決されています。「午前十時ヨリ東京商工会議所ニテ開カル、日本商工会議所ノ臨時總會ニ宇和島会頭トシテ出席シ、政府ノ經濟會議所案ニ対スル決議ヲナス。予ハ正午前議會ニ登院シテ、二ツノ委員会ニ出席シ、建議委員会ニ於テハ、予ノ提案ニ係ル吉野・窪川間及ビ宇和島・宿毛間ノ鉄道速成ニ関スル建議案ヲ説明シ、青木鉄道参与官トノ間ニ応答アリテ、二案共可決トナル。午後一時ヨリ本会議ニ出席シタルガ、本日ハ閑院宮春仁王殿下ノ御台臨アリ。三時過散会ノ後、院内大臣室応接ニテ、黒崎法制局長官ト面談スル所アリ。五時旅館ニ帰り、九時迄書面等ヲ認ム」。

3月3日(金)は、委員会に出席しています。「午前十時半登院。地方鉄道法中改

正法律案ノ委員会ニ出席シ、予、年長議長トナリテ委員長ニ高見之通氏ヲ決定シ、理事ヲ選ミテ、直チニ散会。更ニ他ノ委員会ニモ出席シテ、午後三時帰宿ス。後、中村純一君ヲ興亞院ニ訪ヒナドス」。

3月4日(土)は、本会議等に出席しています。「午前藤本藤平君上京、来訪。十一時ヨリ蚕糸会館ニ於ケル蚕糸業対策委員会ニ出席シ、午後五時了ル。其間ニ議會ノ本会議ニモ行キ、午後一時ヨリ三時過迄議席ヲ保ツ。本日ハ北白川宮殿下ノ台臨アリキ」。記事、中、藤本藤平は元宇和島市会議員（昭和5年10月～11年5月、民政党、自転車商）です。

3月5、6日は親戚の中村惣八の件で、広島逓信局へ行っています。

3月7日(火)は、樋口宇和島市長や宇和島市選出の県会議員とともに関係官庁へ陳情をしています。「午前七時二十分東京ニ着シ、龍名館ニ入ル。来京中ノ樋口市長ニ会ヒ又松葉館止宿ノ薬師神、佐々木両県会議員モ龍名館へ招キテ、四人打合ノ上、宇和島市ニ関スル諸要件ニテ、各主務官省ヲ訪問ス。十時ヨリ始メ専売局長官、河西収納部長、大蔵省ノ伊達侯爵、逓信省無線課長、内務省ノ各課局、近藤事務官等、転ジテ放送協会ノ企画課長へ行キテ、夫々面談シ、午後二時半大体了ル。予ハ諸氏ニ別レテ衆議院へ行キ、本会議ニ出席シ、四時過商工省事務局ヲ訪ヒ、処要ヲ弁ズ。夜八時ヨリ九段松葉館ニ薬師神、佐々木両君ヲ訪ヒテ、三人囲碁ヲ闘ハシ、十二時過辞シタリ」。記事、中、薬師神は薬師神岩太郎県会議員（政友会）、佐々木は佐々木饒県会議員（民政党）です。亀太郎、薬師神、佐々木の3人が囲碁を戦わすなど、宇和島の政界も大分抗争が薄らいできているようです。

3月8日(水)は、蚕糸会へ行く等しています。「朝、樋口市長宇和島へ出発ス。予ハ十時過ヨリ議會ニ行キ、午後中央蚕糸会へ行キテ長岡理事ニ会ヒ、又六時ヨリ砂田氏主催丁丑会議員招待ノ宴会ニ築地きん楽ニ出席ス」。

3月8日の夜、一旦帰国の途についています。そして、再び12日に上京し、13日に東京に到着しています。

3月14日(火)は、愛媛県関係者とともに関係官庁への陳情、本会議への出席等

しています。「午前九時過県経済部長及ビ宮内技師ヲ美土代旅館ニ訪フ。十時宇和支庁ノ松木勸業課長，戸島村長等吾旅館ニ来訪。共ニ商工省ヘ行キテ，鉱山局ノ鉄鋼課長ニ面談シ，同君等ノ所用ヲ弁ジテ後，予ハ十一時衆議院ニ登院ス。例ニヨリ代議士会アリテ，後，午後二時ヨリ本会議ニ出席，昭和十四年追加予算満場一致ヲ以テ可決ス。五時帰宿。夜，和田清治君来訪」。

3月15日(水)は，委員会に出席等しています。「朝，二，三ノ来訪者アリ。十時登院，軽金属法案ノ委員会ニ出席シ，午後二時其政友会所属委員丈ヶ芝三縁亭ニ会シテ，案ニ対スル態度ヲ協議ス。再ビ院内ニ帰り，夕六時龍名館ニ帰ル」。

3月16日(木)は，愛媛県関係者とともに関係官庁への陳情を行い，また，本会議へ出席しています。「朝，和田，辻，岡本，渡辺，細川等数組ノ来訪者アリ。衆議院ヘハ十一時登院シ，院内ニテモ来訪者ニ接シ，又政務官ニ会ヒナドス。午後三時ヨリ本会議ニ出席シ，六時過帰宿。夜，築地新中ニテ和田君等ト夕食ヲ共ニス」。

3月17日(金)は，登院し，砂田氏と協議しています。「午前来客ニ接シ，又書類ヲ整理ス。正午登院。砂田氏等ト談ジ，本日ハ本会議ナキヲ以テ午後三時半帰レリ」。

3月18日(土)は，委員会，本会議に出席等しています。「午前鉄道省ニ馬場自動車課長ヲ訪ヒ，又商工省ヘ行キ，十一時過登院，委員会ニ出席ス。又宇和島市ヘ宛テ臨港道路補助決定ト近々技師派遣ノ旨打電通知ヲナシ，午後二時ヨリ本会議ニ出席。米穀配給統制法案ヲ修正可決ス。六時会議了リテ退出」。

3月20日(月)は，本会議に出席等しています。「午前農林省及ビ製糸連ヘ行キテ後，十一時半登院ス。午后本会議ニ出席，追加予算其他ヲ議決シテ，六時散会トナリ，龍名館ニ帰ル」。

3月22日(水)は，代議士会，本会議に出席等しています。「朝，鐘紡本社ノ唐沢氏来訪。九時半登院。代議士会ニ出デ，十時ヨリ本会議開会，増税案ヲ修正可決ス。午後院内ニテ野口君ト談ジ，又商工省ヘ行キナドス。五時ヨリ木挽町

萬安ニ於ケル丁丑会主催ノ四代行委員其他幹部招待ノ宴会ニ出席シ、九時半帰宿シタリ」。記事中、四代行委員とは鈴木喜三郎政友会総裁の代行の中島知久平、鳩山一郎、島田俊雄、前田米蔵のことです。

3月23日(木)も、本会議に出席等しています。「朝、和田君来訪。十時農林省へ行キテ後、議會へ廻リ、院内ニテ水産局長、監督課長ニ会フ。午後本会議ニ出席シテ、五時一旦帰宿。六時ヨリ築地新喜樂ニ於ケル山下亀三郎氏主催ノ喜樂会ニ出席シ、又和田君ト共ニ不二莊ヘモ行キタリ」。記事中、山下亀三郎はいうまでもなく、愛媛県北宇和郡吉田町の出身の山下汽船の社長です。

3月24日(金)には、地元の関係者とともに関係官庁への陳情や本会議への出席等しています。「朝、三、四ノ来訪者アリ。宇和島ヨリ来訪ノ宇都宮貞君外二名ヲ伴ヒテ、十時商工省へ行キ、処用ヲ弁ジテ後、衆議院へ登院。右諸氏及ビ来京ノ濱崎亀造君ヲ案内シテ院内ヲ觀サシム。午後一時過ヨリ本会議ニ出席シ、五時散会。六時ヨリ芝紅葉館ニ於ケル島田俊雄氏主催ノ丁丑会議員招待宴ニ行キ、八時ヨリ昨日来京ノ商工会議所理事兵頭敏夫君ト市中散歩、不二莊ヘ案内シテ、十時半龍名館ニ帰レリ」。

3月25日(土)は、議會の最終日で、本会議に出席しています。「朝、来訪者ニ接シ、九時半兵頭君ヲ伴ヒテ登院。院内ヲ參觀セシメ、予ハ十一時ヨリ逡信省ニ秘書課長ヲ、農林省ニ監督課長ヲ訪ヒテ面談ス。午後一時ヨリ衆議院ノ本会議ニ出席シ、諸議案ヲ議了シテ後、本日ヲ以テ会期終了スルヲ以テ、五時議長ノ挨拶アリテ無事散会ス。帰宿後、書類ノ整理ニ当ル」。

3月26日(日)は、議會の閉院式の日で、これに出席し、また平沼首相主催の午餐会に出席等しています。また、政友会内部で、後継総裁を巡って派閥争いが始まっていることが分かります。「午前十時半衆議院へ登院。十一時貴族院ニ於ケル第七十四帝国議會ノ閉院式ニ出席ス。平沼首相勅語ヲ奉読シ、嚴肅裏ニ式ヲ了レリ。正午首相官邸ニ於ケル両院議員招待午餐会ニ出席ノ後、二時ヨリ下澤金丸君方へ行キテ碁ヲ囲ミ、六時ヨリ赤坂中川ニ於ケル政友会少数代議士ノ会合ニ行ク。原、紅露、久山、沖島、高橋圓、行吉、稻田、大本ノ諸氏ト総裁

問題等ニ関スル意見ヲ交換シテ九時帰宿シタリ」。

3月27日(月)には、宮城へ参内し、天皇に拝謁等しています。「十時鉄道省へ行キテ、喜安次官及ビ堀越建設局長ニ面談シ、十一時興亞院ニ中村純一君ヲ訪フ。一旦帰宿ノ上、服装ヲ改メテ十一時半宮城へ参内ス。坂下門ヨリ東御車寄ニ参入シ、衆議院議員一同ト共ニ東溜ノ間ニテ待ツコト少時。正午正殿ニ於テ各大臣、貴衆両院議員ニ拝謁ヲ賜フ。天皇陛下出御、一同最敬礼シテ、御機嫌麗ハシキヲ拝シ、後、豊明殿ニ於テ酒饌ヲ下賜セラレ、御紋章入ノ御煙草及ビ御菓子ヲ頂キテ、午后一時退出シタリ。二時内務省へ行キテ土木局長道路課長ニ会ヒ、三時政友会本部ニ於ケル議員総会ニ出席ス」。

3月28日(火)には、愛媛県選出の政友会議員の会合に出席し、政友会内部の内紛について話し合っています。「朝ヨリ午後一時迄旅館ニアリテ、書類ノ整理ト諸印刷物ノ荷造ヲナシ、二時日本銀行ニテ歳費ノ小切手ヲ引出シタル後、新宿へ行キテ伊勢丹百貨店へ入り、土産物数品ヲ買フ。六時ヨリ赤松永楽ニ於ケル砂田氏主催ノ愛媛県政友会議員ノ小会合ニ出席シ、河上、大本ノ諸氏ト共ニ党内事情ニ就キ談合ス」。

そして、3月29日の夜、帰国の途についています。長い議会でした。第74議会が終わり、政友会内部の内紛がついに爆発しました。政友会は、昭和12年2月鈴木喜三郎総裁が病気のため、辞任し、以後、政友会の中島知久平、鳩山一郎、島田俊雄、前田米蔵の4代行委員の下で運営されていましたが（幹事長は砂田重政）、ついに14年4月に分裂しました。4月10日、中島派は「政友会革新同盟」を結成し、多数派工作を行い、他方、鳩山派等は「伝統擁護団」を結成し、対抗しました。中島派は、4月22日に、来る30日に党大会を開催する事を決定し、招集通知を出しましたが、これに対し、鳩山派と反中島派が反発し、砂田重政幹事長は大会招集取り消しの電報をうち、また、病気療養中の鈴木喜三郎前総裁が4名の総裁代行委員を解任し、新たに、久原房之助・三土忠蔵・芳沢謙介の3人を代行委員に任命するなど、対立と混迷が続いています⁴⁶⁾

亀太郎には、この中島・鳩山両派から勧誘の電報が届いています。その電報

が残っており、大変興味深い資料ですので、掲載しておきましょう⁴⁷⁾

4月10日「政友会革新同盟結成ス、現在加盟者九十八名トナツタ、此際貴下ノ御加盟願ヒ度シ、代理署名シテヨキヤ、河上氏モ署名シタ」原惣兵衛。

4月13日「同志代議士百十一名ニ達セリ、益結束ヲ固メ、最後ノ目的達成ニ邁進セントス、此際一層ノ御努力ヲ祈ル」政友会革新同盟。

4月18日「二十日ノ代行委員会ノ結果ハ極メテ重大ナルニツキ、当日六時帝国ホテルニ来会ヲ乞フ、万一出席出来難キ場合ハ電報ニテ参加ノ意ヲ表セラレタシ」政友会本部内革新同盟。

4月24日「三月二十二日ノ代行委員一致ノ申合ニ基キ、本日総務会ニ於テ、四月三十日党大会ヲ開キ、総裁決定ノコトニ決シ、本部ヨリ各支部ニ通知セリ、其趣旨御諒知ノ上、代議員ノ撰定、同志ノ獲得其他万全ノ策ヲ講ゼラレンコトヲ切望ス」政友会革新同盟。

4月26日「三十日大会正式決定シタ、お話申シタシ、御上京ヲ待ツ、何時立タレルカ御知ラセ乞フ」久山知之、原惣兵衛、紅露昭。

4月26日「不純ノ暴挙ニヨリ光輝アル吾党ノ伝統正ニ没却サントス、正義ノ大旗ヲ掲ゲ、長老先輩参加ノ下ニ之ヲ打破スベク御協議シタシ、二十八日正午帝国ホテル三五六号室へ御参集ヲ乞フ」伝統擁護団実行委員長宮脇代議士外一同。

4月27日「昨夜来徹宵懇談ノ結果、詮衡委員ヲ挙ゲ、総裁候補者ノ詮衡ヲ一任スルコトニナリタリ。詮衡委員ハ、久原、三土、前田、島田、大口、松野ノ六氏ニ砂田幹事長ヲ加ヘ、即刻詮衡ニ着手セリ、一層各位ノ御後援ヲ乞フ」宮脇委員長。

4月27日「形勢油断出来ヌ、予定通り明日正午帝国ホテルへ御参集ヲ乞フ」宮脇実行委員長。

4月28日「前電、総裁詮衡委員会ハ終ニ成案ヲ得ル能ハズ、決裂セリ。四月

46) 升味『前掲書 第7巻』113～118頁。

47) 高島文庫「昭和14年政友会内紛に関する亀太郎宛電報」

二十三日付本部ノ名ニ於テ支部及所属議員各位ニ発想セル臨時大会招集状ハ正式総務会ノ議ヲ経ズ、幹部会、常議員会等各機関ハ全ク関知セズ、且幹事長ノ手ヲ経ズシテ、咄嗟ニ強行セル一部少数者ノ陰謀ニテ、党規ニ背キ、伝統ヲ紊ル不法ノ行為ナリ、茲ニ党ハ四月十四日ヲ以テ臨時大会ヲ開催スルモノ非ザルコトヲ明確ニスル為メ御通知申上グ」砂田幹事長。

4月28日「総裁候補者詮衡委員会ハ決裂消滅セリ、既定ノ通り三十日大会ヲ開ク、是非出席セラレタシ」本部

4月28日「本部以外ノ所ヨリ砂田幹事長ノ名義ノ電報又ハ書面ヲ以テ三十日ノ党大会ハ取消スト通知シタルモノアルモ、右ハ党ノ分裂ヲ企テ、臨時大会ヲ阻止セントスルモノノ策動ナリ、斯カル策ニ惑ハサルコトナク、三十日ノ大会ニ於テ全黨員ノ意志ヲ明白ニセラレンコトヲ望ム」政友会本部

4月29日「本日鈴木総裁ハ代行委員4名ヲ解職シ、新ニ下名等三名ヲ代行委員ニ指名セラレ、一切ノ党務ヲ処理セラル、コトニ決定セリ、宜敷御後援ヲ乞フ」三土忠造、久原房之助、芳沢謙吉。

以上のような、両派からの働きかけに対し、亀太郎の態度は「静観」でした。4月25日の日記に「午前九時、大本貞太郎君ヲ訪ヒテ、政友会本部ノ総裁問題ニ関スル紛糾ニ就テ意見ヲ交換シ、暫ク静観スルコト、ス」とあります。また、4月28日の日記にも「政友会本部総裁問題ニ対スル革新同盟及ビ伝統擁護団双方ヨリ来電頻リナルガ、三十日ノ党大会招集ハ正式手続ヲ経タルモノニアラザル旨、砂田幹事長名義ニテ来電アリ。此際ハ上京セザルコト、ス」とあります。亀太郎は、「静観」ですが、どちらかと言えば、伝統擁護団派のようです。

さて、4月30日に政友会中島派中心の臨時党大会が強行され、中島知久平が政友会総裁に選出されました。政友会代議士148名中96名、貴族院議員33名中12名が中島支持でした。このように政友会内では中島派が多数を占めていました。他方、反中島派、鳩山派は、5月20日に大会を開き、鈴木前総裁の指名によって久原房之助を総裁に選んでいます。ここに、政友会は2派に分裂しました⁴⁸⁾

政友会が2派に分裂後も、愛媛県の政友会支部、また亀太郎は、「静観」の態度だったようです。日記に「后一時、道後鮎屋ニ滞在ノ砂田重政氏ヲ訪フ。赤松、和田、得能ノ諸君モ共ニ会ス。三時ヨリ一同二番町梅迺家ニ於ケル政友会支部ノ会合ニ出席シテ、砂田、河上両氏ヨリ政友会内紛ノ事情ヲ聴キ、当県ハ暫ク静観ノ態度ヲ採ルコトニ申合セス」（5月28日）とあります。記事中、赤松は赤松勲（北宇和郡選出県会議員）、和田は和田清治（元県会議員、前出）、得能は得能彰（西宇和郡選出県会議員）です。

政友会内部の紛糾の責任をとって、砂田幹事長が代議士の辞意を洩らし、亀太郎らが慰留していることが日記にあります。「東京ノ砂田重政氏ヨリ、党紛糾ノ責ヲ負ヒ、代議士ヲ辞職シタリトノ電報、昨夕達シ、留任ヲ切望スル旨返信ス」（5月1日）、「予ハ十時ヨリ芝愛宕山ノ嵯峨野ヘ行キテ、砂田、佐々木、和田、名本、得能ノ諸氏ニ会ヒ、砂田氏ヨリ政友会ノ紛糾ニ就キ内面事情ヲ聴ク。尚、予等ヨリ砂田氏ノ議員辞職中止ヲ懇懇ス」（5月17日）。そして、砂田は議員辞職を思い止まったようです。

昭和14年の5月から8月にかけて（平沼内閣時）、「満州国」とモンゴルの国境、ノモンハンで、関東軍とソ連軍とが大規模な武力衝突事件を起こし、日本軍が壊滅的に敗北しています。また、国内では、日独防共協定をソ連以外の英仏をも仮想敵国とする軍事同盟に強化しようとする問題を巡って、閣内対立が激化していました。その折り、8月23日にドイツとソ連間で「独ソ不可侵条約」が締結され、日本側はこれに驚き（ソ連は日独共同の敵と考え、防共協定を結んでいるのに、また、ノモンハンでソ連と戦闘しているのに、こともあろうに、ドイツがソ連と手を握るとは、一体どういうことかと理解に苦しみ）、平沼首相は8月28日「欧州情勢は複雑怪奇」との言葉を残して総辞職してしまいました。

平沼退陣の後、陸軍大将の阿部信行が首相に任命され、昭和14年8月30日、阿部内閣が成立しています。

48) 升味『前掲書 第7巻』117頁。

阿部内閣の成立早々の9月1日、ドイツがポーランドを侵略し（独ソ不可侵条約によりドイツが安心して侵略拡大）、ヨーロッパでも戦争が始まり、第2次世界大戦の開幕となりました。

時の阿部内閣は、年末招集の第75帝国議会で、衆議院議員240名余りが内閣不信任案を決議し（12月26日）、退陣をせまり、翌昭和15年（1940年1月16日）総辞職しています。阿部内閣は4ヵ月足らずの短命内閣でした。

(2) 宇和島市長・亀太郎

昭和14年は宇和島市政も波瀾万丈の年です。また、亀太郎が宇和島市長に就任する年にあたります。

民政党の樋口虎若市長は、5月1日辞表を提出し、17日に退任しました。そして、臨時市長代理に助役の尾下鶴正⁴⁹⁾が就任し、当面の市政を担当しています（5月17日就任、6月12日退任）。

尾下臨時市長代理の時期の5月26日、行政裁判所が昨13年10月10日に行われた市会議員選挙への異議申し立てを審議し、その判決が出ました。すでに述べましたが、それは、13年10月の市議選挙は無効、議員失格というものでした。日記にも「市会選挙ニ関スル行政訴訟ハ、本日行政裁判所ノ判決アリテ、昨年十月ノ議員選挙ハ無効トナリ、全議員失格トノ報アリ。従テ昭和十一年五月当選ノ市会議員ハ再ビ資格ヲ復活ス」（5月26日）とあります。

その結果、前回の市議（11年10月10日当選の市会議員）が復活しました。新市会の勢力分野は、政友会派14名、民政派14名、中立3名となり、議長は前市会の吉原多七（民政）、副議長は井上雄馬（政友）となりました⁵⁰⁾

復活新市会議員の下で、新市長選びが始まりました。

49) 明治28年東宇和郡俵津村に生まれる。大正6年京都高等蚕糸学校卒業。9年愛媛県農林技師、蚕業取締所宇和島支所長に就任。昭和5年10月～11年5月宇和島市会議員（民政党）、10年9月～12年3月愛媛県会議員（民政党）等を歴任。13年10月に宇和島市助役に就任していた。

50) 『海南新聞』昭和14年5月27日、28日。

6月11日、政友会宇和島部会で、次の市長候補の協議が行われ、衆議院議員の亀太郎が候補者になっています。「杉内、藤本ノ諸君来訪。牧野、久野両君トモ打合シタルガ、夜、蔦屋ニテ政友会宇和島部会ノ協議会ヲ催シ、市長問題ハ予ヲ候補者トスルコトニ決シタル由ナリ」。亀太郎にとっては2度目の候補です。

そして、6月12日に、復活市会議員による初市会が開催されました。そこで、政友会のみならず、反対党の民政党も亀太郎を市長に推薦しました。市長詮衡委員会の委員長は民政党の佐々木饒でした。長年にわたる政友・民政の政争の果て、疲れの結果の政友・民政の協調と思われます。そして、市会では全会一致で、亀太郎が第8代宇和島市長に選出されました。日記に「本日宇和島市会開カレタルガ、復活議員ノ初市会ニシテ、市長選挙執行ノ提案アリ。先日来政友、民政、中立ノ議員間ニ交渉アリテ、予ヲ候補者ニ擬セラレ居タルガ、市会ニ於テ詮衡ノ結果、予ヲ推薦ノ上、全会一致ヲ以テ選挙セラル。午後一時、吉原議長及ビ詮衡委員九名来訪。向ヒ家ノ座敷ニ於テ接見ノ上、佐々木委員長ヨリ市会ノ経過ヲ述ベテ、予ニ承諾ヲ求メラレ、予モ豫テ考慮シタルコトナレバ、市政ノ現状ニ鑑ミ、即時之ヲ承諾ス。則、一行ハ直チニ帰りテ市会ニ報告シ、茲ニ予ノ市長就任確定ス。第八代ノ宇和島市長ニシテ、全員一致円満協調ノ下ニ当选シタルハ、初代山村市長以来ノコトナリ。二時五分市役所ヨリ当选告知書到達、其承諾書ヲ出セリ。尾下助役、宮田庶務課長祝賀ニ来リ。其他祝ヒノ来客多シ。此事早クモ東京方面ニモ聞ヘ、山下亀三郎氏、二神駿吉氏ヲ始メ在京ノ方々ヨリ祝電アリ。夕方兵頭会議所理事ヲ招キ、後、菊池伝次郎氏モ来訪。会議所ノコトニ就テ談ズ。牧野君等モ祝辞ニ来ル。夜八時半ヨリ薬師神、久野、久松等へ取敢ヘズ挨拶ニ行キタリ」とあります。

宇和島市会の現状に鑑み、亀太郎も一肌脱ぐ考えであり、また全会一致故、亀太郎も満更でなく、即時市長就任を受諾しています。宇和島市長・亀太郎の誕生です。亀太郎は衆議院議員と宇和島市長を兼務することになりました。

以下、市長就任後の亀太郎の多忙ぶりについて見てみましょう。

6 月 15 日に亀太郎は初登庁しました。そして、この日は政見の発表、職員への訓示、神社への参拝、各界への挨拶回り等を行っています。「朝、業用ヲナシ、午前九時四十分、自動車ニテ市役所ニ行き、初メテ市長トシテノ登庁ヲナス。先ヅ新聞記者ニ政見ヲ発表シ、商工都市ノ体制ヲ整フルコトヲ以テ政策ノ中心トス。十時市会議事堂ニ吏員全部ヲ集メテ就任ノ挨拶ト訓示ヲナシ、此際妄ニ異動ヲ行ハザル旨ヲ告グ。尾下助役ノ答辞アリ。了ッテ宮田庶務課長ヲ随へ、市内ノ宇和津彦、鶴島、和霊、八幡ノ各神社へ参拝シ、八幡神社ニ於テ奉告祭ヲ執行ス。続テ各官庁、学校、新聞社及ビ新旧市会議員ノ宅へ新任ノ挨拶ニ巡リ、午後六時迄ニ百余戸ヲ廻歴シテ帰宅シタリ」。

市長就任以降、亀太郎の業務は多忙です。6 月 16 日には、応召兵に対する市長としての挨拶、尾下助役からの事務の引き継ぎ、九島村への市長就任挨拶等を行い、17 日には、来訪者に接し、また、司法保護事業後援会の会合での挨拶、市長主催の新聞社の招待会を行い、18 日は日曜日ですが、興亞青年勤労報国団の団員渡満壮行会での送別の挨拶等を行っています。また、この日に、宇和島商工会議所会頭の職の辞任届けを出しています。19 日には、製糸業者主催の市長就任祝いに出席し、20 日には商工会議所の役員と会頭問題を巡って会合し、21 日には、山村豊次郎の墓参り、明倫校での初等教育研究会の会合での挨拶、司法保護事業後援会の会合への出席、缶詰業組合の宴会への出席等々を行い、22 日には、亀太郎主催にて、市会議員、市立病院長、助役、各課長、市立学校長を招待し市長就任の披露宴等、挨拶、宴会が続きます。23 日には、商工会議所の役員と会合し、市長と会頭とは両立出来ない旨を述べ、会頭辞意を表明しています。日記に「九時登庁、十時商工会議所議員ノ代表委員遠藤省一君外四氏ヲ招キテ、会頭問題ハ考慮シタルモ、市長トシテ双方ノ主班タルコトハ不適當ト信ズルヲ以テ、辞表ヲ撤回シ難キ旨ヲ回答シ、孰レモ之ヲ諒トシテ帰ラル。新聞記者団ニモ此旨ヲ声明ス」(6 月 23 日)とあります。なお、後任の会頭には、24 日の商工会議所の議員総会で副会頭の菊池伝次郎が会頭に選ばれています。

6月26日には、県庁に行き、また、二十二連隊、伊予鉄道本社、商工会議所へ行き、市長就任挨拶をしています。本当に多忙です。

7月に入り、貴族院多額納税議員の改選問題で、亀太郎は、佐々木長治（西宇和郡出身、予州銀行頭取、元衆議院議員）を推すことを南予の多額納税者達等と相談しています。「午後一時半ヨリ和田君ト共ニ自動車ニテ郡部ヘ行キ、岩松ノ両小西家、旭ノ桂君、松丸吉野ノ両正木家、好藤ノ太宰氏等ヲ歴訪シテ、七時宇和島ニ帰ル。佐々木長治氏ノ貴族院多額納税議員推薦ニ就テナリ」（7月5日）。記事中の人物は、和田清治、小西莊三郎、万四郎、桂作蔵、正木哲一、正木郁三郎、太宰孫九です。貴族院多額納税議員の選挙は9月10日に行われ、政友会の推す佐々木と民政党の推す野間信熙が争い、佐々木が当選しています⁵¹⁾ 亀太郎の尽力大です。

7月7日は、「日支事変」2周年で、記念事業が行われ、亀太郎は市長として、玉串をささげたり、式典で勅語の奉読、演説、また戦病者家庭の慰問等をしています。日記に「日支事変二周年記念日ナレバ、朝七時和霊神社ニ参拝シ、既ニ集レル市吏員及ビ一般市民ト共ニ祈念ス。社司、神官ノ式アリテ、予等玉串ヲ奉典セリ。九時半市役所ニテ、勲章伝達式ヲ行ヒ、十時議事堂ニ於テ、各団体幹部及市有志ヲ集メテ、事変記念会ヲ開ク。予、勅語奉読誓詞ヲ朗読ノ上、時局ニ関スル一場ノ講演ヲナシ、十一時閉会。昼食ハ庁員一同日ノ丸弁当ナリ。午後三宅書記ヲ従ヘテ、市内広小路笹町方面ノ戦病死者家庭ヲ訪問シ、霊前ニ菓子ヲ供ス」とあります。なお、この日、尾下助役が9月の県議改選に東宇和郡より立候補（民政党より）するとのことで、助役の辞表が出ています。

7月8日に亀太郎市長就任後の初めての市会が開かれました。政友会・民政党の政争はなく、円満に議会が行われたようです。「本日ハ市会招集ノ日ナルヲ以テ、議員参集シテ内部ノ交渉アリ。正午開会。直チニ休憩シテ午后一時過再開。吉原君議長トシテ会議ヲ進メ、先ヅ予ノ初市会ナルヲ以テ、劈頭就任ノ挨

51) 『愛媛県議会史 第4巻』1310～1311頁。

撈ヲナシ、川添議員ノ祝辞アリ。議事ニ入り、公会堂建築資金募集案ハ満場ノ同意ヲ得テ成立。予ヨリ委員ヲ推薦承認ヲ受ク。其他戸数割賦課等級調査委員ヲ選定シ、二、三ノ議案ヲ議決シテ、極メテ円満裏ニ四時散会ス。五時樺崎阜頭ニ出デ、応召兵ノ出発ヲ送り、六時乗船出港ノ後、帰宅シ、尚業用ヲナス」。

7月14日の夜、亀太郎は陳情活動や市長就任の挨拶等のために、上京の途に就きました。亀太郎は16日の朝8時半東京に到着し、いつもの呉服橋の龍名館に泊まり、17日以降、東京で市長としての多忙な活動をしています。

7月17日は、内務省、大蔵省等への陳情と山下亀三郎に会い、市長就任の挨拶をしています。華宵宅も訪れています。「朝七時、河上哲太氏ヲ麻布霞町ノ宅ニ訪ヒ、八時半宮田君ト共ニ内務省ヘ行ク。三階食堂ニテ、県ヨリ来京ノ千葉土木課長、宮内技師ニ会ヒ、府県道宇和島・三浦線認定ニ就テ共ニ道路課ヘ行ク。予ハ課長ニモ会ヒテ一旦帰宿。十一時モーニングニ改メ、市長就任挨拶ノ為メ、宮田君ヲ従ヘ、先ヅ丸之内八重洲ビルノ山下株式会社ヘ行ク。木村、堀井、渡辺ノ諸氏ニ会ヒ、十一時半山下亀三郎氏ニ面会シテ、就任ノ挨拶ヲナシ、正午迄談ジテ同社ヲ辞ス。午後内務省ヘ行キテ、土木局関係ノ各課ヲ廻リ、大蔵省ヘ行キテハ起債関係ノ各課ヲ歴訪シテ夫々就任ノ挨拶ヲナシ、興亞院ヘモ寄リテ四時帰宿。岡本君等ノ来訪者ニ会ヒ、予ハ五時ヨリ鎌倉ヘ赴ク。弟華宵方ヲ訪ヒテ、折柄来合セタルベニバラ社ノ加藤清一君モ加ハリテ夕食ヲ共ニシ、更ニ華宵、清一及ビ武彦ノ三氏ト共ニ、由比ヶ浜海水浴場ノ夜景ヲ観テ納涼ノ上、九時過駅迄見送ラレテ帰途ニ就キ、十一時東京龍名館ニ帰ル」。

7月18日は、伊達侯爵、二荒伯爵等宇和島出身の有力者への挨拶回りをしています。「宇和島地方出身ノ在京有力者ノ向ヘ、市長就任ノ挨拶ニ廻ル為メ、自動車ヲ借切リテ、午前九時旅館ヲ出ヅ。祖上君ヲ案内者トシテ、宮田君ト共ニ同乗セシメ、先ヅ伊達侯爵家、二荒伯爵家、西村家令邸ヲ訪問シテ、挨拶ヲ述ベタル後、市内各方面ヲ廻ル。昼食ハ三信ビルヲ訪ネテ武藤氏ニ招待セラレ、午後五時迄ニ四十余軒ヲ歴訪シテ旅館ニ帰ル。本日ヨリ四日間防空演習ニ入ル。予ハ灯下管制下ノ浅草活動街ヲ見テ、十時帰宿シタリ」。

7月19日も挨拶回り及び大蔵省に行き、市の起債許可等を陳情しています。「昨日ニ引続キ祖上、宮田両君ヲ伴ヒ、ハイヤニテ挨拶ニ廻ル。本日ハ主トシテ新市内ノ目黒ヨリ吉祥寺方面マデ行キ、午後三時全ク予定ノ全部ヲ了レリ。四時大蔵省ヘ行キテ市ノ起債許可及ビ預金部借入許可ニ就テ各主任ヘ話シタリ」。

7月20日は、起債関係で内務省へ行ったり、伊達家へ行き、道路敷地の寄付を要請しています。「午前九時宮田君ト共ニ内務省ヘ行キテ起債関係ノ係員ニ会ヒ、又行政課五十嵐氏ニ会ヒテ宇和島市会議員任期ニ就テ意見ヲ聴ク。之ニテ大体官庁ノ用件ヲ済マセ、更ニ十一時ヨリ伊達家ヘ行キテ、市ノ道路敷地寄附ノ件ヲ中澤冬生氏ニ要望シ、正午退出」。

7月21日は、亀太郎が主催して、在京の有力者を招待しています。「本日ハ宇和島地方出身ノ在京有志ヲ芝愛宕山月見台ノ料亭嵯峨野ニ招待セル日ナルヲ以テ、幹旋役タル祖上君ト市ノ宮田君ヲ午前中ヨリ之ニ遣ハシテ、午餐会ノ受付準備ヲナサシメ、予ハ十一時半同亭ヘ赴ク。程ナク来賓入来アリ。一階ノ待合ニテ揃ヒタル上、二階広間ニ案内シテ、正午ヨリ披露宴ヲ開ク。来客ハ伊達侯爵家ノ西村保吉氏、山下株式会社ノ堀井氏、日満鉱業ノ白木氏ヲ始メ、芝義太郎、宇都宮政市、武藤忠義、浜田吉次郎ノ諸氏、弟華宵等四十余名ニシテ、新任愛媛県知事持永義夫氏モ遅レテ到ル。予ノ就任挨拶ニ対シ、西村氏ノ謝辞アリ、主客和気藹々ノ中ニ郷里ヲ談ジ、食事了ルヤ法華津孝治氏ノ発声ニテ万歳ノ三唱アリ。午後三時全ク散会ス。帰宿後、更ニ蚕糸会館ノ岡本氏ヲ訪ヒテ、共ニ石油連合ノ市来氏ヲ訪ヒ、又六時渋谷ニ西村氏ヲ訪ヒテ、七時退出。灯下管制下ニ呉服橋ヘ帰ル。予ハ予定ノ通り、今夜出発スルコト、シ、行李ヲ整ヘテ九時龍名館ヲ辞シ、両三日滞京ノ宮田君ニ駅迄送ラレテ九時四十分ノ下り急行ニ投ジ、帰国ノ途ニ就キタリ」。

帰郷後も、市長としての多忙な公務が続きます。

7月24日は、尾下助役の辞表を正式に受理し、県下市農会協議会の宴会、市主催県参事会一行の招待会に出席しています。

7月26日は、港湾改修工事の实地視察、30日は、第2回排英市民大会の準備や応召兵の出発を樺崎阜頭に見送ったりしています。31日には、第2回排英市民大会を市役所議事堂に開き、日英会談に対し、政府激励の決議を行い、亀太郎が対支経済問題を中心とした日英相剋関係事情について演説をしています。350名ほど参加し、頗る緊張した会合でした。

8月1日には、応召兵の出発を樺崎阜頭に見送り、送別辞を述べています。5日も同様です。

8月8日には、貯蓄組合長会の会合に出席し、また、助役の後任として川添九吉を内定しています。

8月9日に市会を開き、追加予算ならびに後任助役の選出をしています。日記に「午前九時登庁。十時ヨリ市会ヲ開会シ、公会堂建築委員旅費其他ノ追加予算ヲ決議セシム。尚、尾下助役辞任ノ承認ヲ受ケ、同氏ノ挨拶ニ次デ、井上雄馬議員ヨリ感謝ノ辞アリ。休憩ノ後、内部意見全ク一致ヲ見テ再開。予ヨリ川添九吉氏ヲ助役ニ推薦シ、満場異議ナク承認ノ上、午後一時閉会ス」とあります。川添九吉は、民政党の市会議員です。市会での政友・民政の融和・協調が伺われます。

8月11日には、宇和支庁に於ける県主催選挙肅正協議会に出席しています。

8月14日には、海軍の第二艦隊が宇和島に来て、亀太郎が歓迎の辞を述べています。「午前九時登庁ス。午後三時ヨリ伊能兵事課長ノ外在郷軍人連合分会長、警察署長代理等ノ数氏ト共ニ、モーター船ニ乗リテ港外ニ出デ、五時半九島沖へ入港投錨ノ第二艦隊ヲ迎フ。鳥海、摩耶、利根、筑摩ノ四艦ニシテ、予等ハ旗艦鳥海へ行キテ司令長官及ビ参謀長ニ面会ノ上、市ヲ代表シテ歓迎ノ辞ヲ述べ、兵員ニ清酒数樽ヲ贈ル。六時半辞シテ帰レリ。飛行機、市ノ上空ニ飛来シ、水兵ノ上陸スルモノ多シ」。

昭和14年の日記は9月1日で中断しています。丁度この日は、ドイツ軍がポーランドに侵略し、第2次世界大戦の始まった日でした。